

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第 34 集
千葉県袖ヶ浦市
宮ノ後遺跡
(6)
―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

株式会社ライフ・袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

宮ノ後遺跡（6）
―宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―

2023
株式会社ライフ
袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

みやのうしろ

宮ノ後遺跡(6)

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—



2023

株式会社ライフ

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、房総半島の東京湾側中央部に位置しており、農業地帯を形成する内陸部と、工業地帯を形成する臨海部により、大きく発展を遂げてきました。

また、交通アクセスの利便性や住みやすい生活環境などからも移住者が増加しており、さらなる発展が見込まれております。

このような中で、今回の発掘調査場所を含め、神納地区においても宅地開発が進んでおります。

その一方で、神納地区は旧石器時代から近世に至るまで古の人々の生活痕跡が地中に数多く存在している地区でもあります。

そのため地中に存在している埋蔵文化財は開発行為が行われることによって、破壊されてしまうこととなりますが、やむ負えなく開発を行う際には発掘調査を実施し報告書に記録することにより記録で後世へ伝えることができます。

このたび、宅地造成に伴って、神納地区に所在する宮ノ後遺跡の発掘調査を実施し、弥生時代の集落を確認することができ、その成果を発掘調査報告書として刊行する運びとなりました。

本書が多くの方々に手に取っていただき、地域の文化財を理解するうえで活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで、多大なる御理解と御協力をいただきました株式会社ライフ、並びに調査にあたり、ご指導いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和5年3月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、千葉県袖ヶ浦市神納字宮ノ後3363番地1に所在する宮ノ後遺跡（調査コード：SG077）第6次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査・整理作業・報告書刊行は、株式会社ライフによる神納地区宅地造成事業に伴うものであり、千葉県教育庁文化財課指導のもと、袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査面積と発掘調査・整理作業の期間、担当者は以下のとおりである。
[調査面積] 1,133.18㎡
[発掘調査期間] 令和4年1月7日～3月29日
[担当者] 稲葉理恵
[整理作業期間] 令和4年6月16日～令和5年2月15日
[担当者] 助川 諒
4. 本書の執筆は助川 諒が担当した。
5. 今回の発掘調査に伴う出土遺物・記録類は、袖ヶ浦市教育委員会で保管している。
6. 発掘調査及び整理作業を実施にあたり下記の方々に、ご協力いただきました。記して感謝いたします。
株式会社ライフ 千葉県教育庁教育振興部文化財課（五十音順・敬称略）

凡 例

1. 基準点測量は世界測地系を用い、方位は座標北を表している。
2. 挿図中の遺構「S I」は住居跡、「S X」は性格不明遺構、「K」は攪乱を表す。
3. 遺構番号は、1番から遺構番号を付した。
4. 挿図の縮尺・スクリーントーンの凡例は各図に明記した。
5. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
第1図 国土地理院発行 25,000分の1地形図「上総横田」
第2図 袖ヶ浦市発行 2,500分の1地形図「No.41」
6. 遺構図中のドット●は土器、■は石製品・軽石製品、▲は鉄製品の出土位置を示した。
7. 挿図内の破線は遺構推定線、1点破線は床面の硬化面を表す。
8. 出土遺物法量の（ ）は残存値を表す。
9. 本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。
第6次調査 → （6）

目 次

序文	
例言	
序章	1
第1節. 調査に至る経緯 第2節. 調査組織 第3節. 遺跡の位置と環境	
第4節. 周辺の遺跡 第5節. 宮ノ後遺跡調査の歩み 第6節. 調査の方法 第7節. 調査区の基本層序	
第2章 検出された遺構と遺物	7
第1節. 調査の概要 第2節. 遺構と遺物	
第3章 まとめ	31

挿 図 目 次

第1図 調査遺跡位置図	2	第2図 周辺遺跡分布図	2
第3図 宮ノ後遺跡(6)基本土層図	4	第4図 宮ノ後遺跡 遺跡全体図	5
第5図 宮ノ後遺跡(6)調査区全体図	6	第6図 宮ノ後遺跡(6)SI001遺構図・出土遺物	8
第7図 宮ノ後遺跡(6)SI002遺構図	10	第8図 宮ノ後遺跡(6)SI002出土遺物	11
第9図 宮ノ後遺跡(6)SI003遺構図	12	第10図 宮ノ後遺跡(6)SI003出土遺物	13
第11図 宮ノ後遺跡(6)SI004遺構図	14	第12図 宮ノ後遺跡(6)SI004遺構図・出土遺物	15
第13図 宮ノ後遺跡(6)SI005遺構図	16	第14図 宮ノ後遺跡(6)SI005遺構図②	17
第15図 宮ノ後遺跡(6)SI005出土遺物	18	第16図 宮ノ後遺跡(6)SI006遺構図	19
第17図 宮ノ後遺跡(6)SI006出土遺物	19	第18図 宮ノ後遺跡(6)SI007遺構図	20
第19図 宮ノ後遺跡(6)SI007遺構図②	21	第20図 宮ノ後遺跡(6)SI007出土遺物	22
第21図 宮ノ後遺跡(6)SI008出土遺物	23	第22図 宮ノ後遺跡(6)SI008遺構図	24
第23図 宮ノ後遺跡(6)SI009出土遺物	25	第24図 宮ノ後遺跡(6)SI009遺構図	26
第25図 宮ノ後遺跡(6)SI010出土遺物	27	第26図 宮ノ後遺跡(6)SI010遺構図	28
第27図 宮ノ後遺跡(6)SX001遺構図	29	第28図 宮ノ後遺跡(6)SX001出土遺物	30
第29図 宮ノ後遺跡(6)遺構外出土遺物	30		

表 目 次

第1表 宮ノ後遺跡(6) 出土遺物内訳表	32
----------------------	----

図 版 目 次

図版1 検出遺構①	図版2 検出遺構②
図版3 検出遺構③	図版4 検出遺構④
図版5 検出遺構⑤	図版6 検出遺構⑥
図版7 出土遺物①	図版8 出土遺物②
図版9 出土遺物③	図版10 出土遺物④

序 章

第1節． 調査に至る経緯

株式会社ライフより、袖ヶ浦市神納字宮ノ後3363番地1において宅地造成の計画に伴う、埋蔵文化財の所在有無の問い合わせがあった。問い合わせ地は周知の埋蔵文化財包蔵地である宮ノ後遺跡内に該当する旨を回答した。

事業の実施に先立ち、協議を行い、開発区域6,867㎡のうち約10%を対象とした確認調査を実施することとなり、「埋蔵文化財発掘の届出について」の文書提出を依頼し、令和3年6月18日付けで提出された。

その後、千葉県教育委員会より工事着手前に発掘調査を実施するように指示があったことから、開発区域4,292.48㎡のうち、436㎡を対象とした確認調査を実施した。

確認調査の結果をもとに再度協議した結果、遺構の展開が予想され、やむをえず現状保存が困難と判断された区域1,133.18㎡について、記録保存の措置として本調査を行うに至った。

発掘期間は令和4年1月7日から3月29日で実施した。

発掘作業から報告書刊行まで、袖ヶ浦市教育委員会が行った。

第2節． 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

令和3年度（発掘作業）

教 育 長	御園 朋夫	教 育 部 長	根本 博之
教育部次長	小阪 潤一郎	生涯学習課長	高浦 正充
生涯学習課			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵（現場担当）	主 幹	能城 秀喜
主 査	柳井 健	学 芸 員	鎌田 望里
学 芸 員	助川 諒	調 査 員	浅野 雅則

令和4年度（整理作業・報告書刊行）

教 育 長	御園 朋夫	教 育 部 長	小阪 潤一郎
教育部次長	渡邊 弘	教育部参事兼生涯学習課長	高浦 正充
生涯学習課			
文化振興班長	田中 大介	主 幹	能城 秀喜
副 主 査	石井 祐樹	学 芸 員	鎌田 望里
学 芸 員	助川 諒（整理担当）	調 査 員	浅野 雅則



第1図 調査遺跡位置図 (1 : 25,000)



第2図 周辺遺跡分布図 (1 : 8,000)

第3節．遺跡の位置と環境（第1図）

袖ヶ浦市は、千葉県東京湾沿岸の中央に位置しており、北は市原市、南は木更津市と隣接している。

宮ノ後遺跡第6次調査区は、千葉県袖ヶ浦市神納字宮ノ後3363番地1の袖ヶ浦台地に立地する。

宮ノ後遺跡は袖ヶ浦市の南西部、JR内房線袖ヶ浦駅1.2km、長浦駅の3.5km、小櫃川北東岸2.5kmの標高33m程の袖ヶ浦台地上に位置している。

市内北部の袖ヶ浦台地は、下総台地の最南部に位置する台地であり、台地の平坦面は、蔵波川、奈良輪境川、久保田川、浜宿川などが流れ、その浸食によって小支谷を形成し数多くの遺跡が存在している。

また、南部は小櫃川によって形成された沖積地が広がる地理的特徴がある。

第4節．周辺の遺跡（第2図）

袖ヶ浦の弥生時代から古墳時代の遺跡は、蔵波川、奈良輪境川、久保田川、浜宿川などの流域に多く確認されている。その中でも宮ノ後遺跡の周辺では、小櫃川や奈良輪境川が流れており、周辺には集落遺跡、谷ノ台遺跡、山王台遺跡、金井崎遺跡など、弥生時代中期から古墳時代、奈良・平安時代にかけての大規模な定住集落が周辺には分布する特徴があり、北側には古墳群を有する鼻欠遺跡や、南側の台地縁辺部には市指定文化財に指定されている率土神社南古墳や中辻台古墳などが所在している。

また、南東側に分布する、谷ノ台遺跡においても、市指定文化財のお袖塚古墳などが分布しており、そのほか、中辻台貝塚や掘込塚などの近世の遺跡も周辺には存在し、弥生時代から近世に至るまでの遺跡が分布している特徴がある。

第5節．宮ノ後遺跡調査の歩み

宮ノ後遺跡の調査は、今回の調査を含め6次にわたり調査が行われている。

・第1次調査・・・平成9年度、個人住宅、確認調査19㎡/1,126.27㎡、遺構は検出なし。出土遺物は弥生時代土器、古墳時代土師器、須恵器が出土。

・第2次調査・・・平成25年度、宅地造成、確認調査245㎡/2,418.68㎡、近世溝状遺構2条、近世道路状遺構1条、近世土坑1基。出土遺物は古墳時代土師器、近世鉄製品、銭貨。

・第3次調査・・・平成30年度、宅地造成、確認調査648.1㎡/6,867㎡、縄文時代土坑8基・炉穴1基、弥生時代方形周溝墓3基、中・近世溝状遺構2条、近世道路状遺構1条。出土遺物は弥生時代土器、近世陶磁器。

・第4次調査・・・平成30年度、宅地造成、本調査777.5㎡、縄文時代土坑12基・炉穴2基、弥生時代方形周溝墓3基（平面形態、出土遺物等から弥生時代とした。）、古墳1基、近世溝状遺構7条。出土遺物は弥生時代土器、古墳時代土師器、近世陶器。

・第5次調査・・・令和3年度、宅地造成、確認調査436㎡/4,292.48㎡、弥生時代住居6軒、弥生時代土坑1基、近世溝状遺構1条。出土遺物は縄文時代土器、弥生土器、古墳時代土師器。

第1次から第4次調査では、方形周溝墓や土坑などの埋葬施設に関連する遺構が、遺跡内の北東側区域では、弥生時代後期の方形周溝墓と古墳が確認されており、周囲では、同時期の方形周溝墓、古墳など弥生時代から古墳時代の墓域の存在などが推察できていたが、居住域に関しては不明確であった。しかし、第5次調査では住居跡を確認し居住域と墓域の配置状況について把握することができた。第6次調査に関しては第5次調査の結果に基づいて居住域の調査を実施したことから、本報告で調査成果を明示したい。

第6節. 調査の方法

発掘調査の実施にあたり、過去の調査での公共座標に従って設定されている 40 m の大グリッドに合わせた。大グリッドは西から東へ A、B、C・・・、北から南へ 1、2、3・・・とし、これを組み合わせて A1、B1、C1 と呼称している。さらに、大グリッドを 4m × 4m の小グリッドに 100 分割し、北西隅から南東隅へ 00 から 99 の番号を付している。小グリッドの呼称は A1-00・・・A1-99、B1-00・・・B1-99、のようになっている。

発掘調査は、バックホウで調査区の表土を除去したのち、人力による遺構の確認作業を行った。確認した遺構は、土層観察用のベルトを残し、遺構の検出作業を行った。遺構の測量、遺物の取り上げには平板を用いた。遺構の縮尺は炉穴、土坑、住居が 1/20、微細図は 1/10 の縮尺を基本として作成した。遺構内の遺物については、遺構の縮尺に合わせ基本的に全点ドットとした。出土位置を記録した遺物は、遺構ごとに 4 桁の数字を付与して取り上げた。

写真撮影は中型カメラをメインカメラとし、フィルムは 6 × 7 判を使用した。35 mm 小型カメラは、サブカメラとし、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。また、デジタルカメラも補助的に使用した。

本書で掲載した実測図などはアドビ製イラストレーター及びフォトショップを使用してデジタル化した。

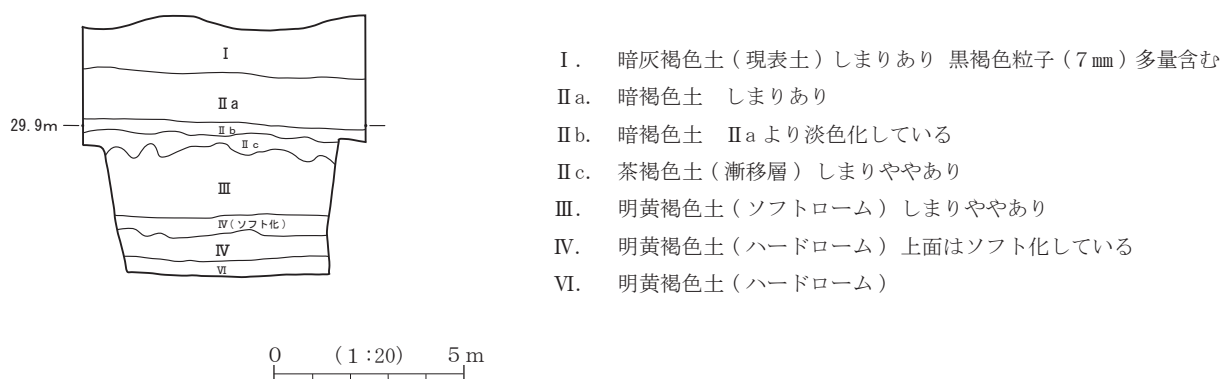
遺物写真はデジタルカメラで撮影したものを使用した。本書の編集はアドビ製インデザインを使用した。

第7節. 調査区の基本層序（第3図）

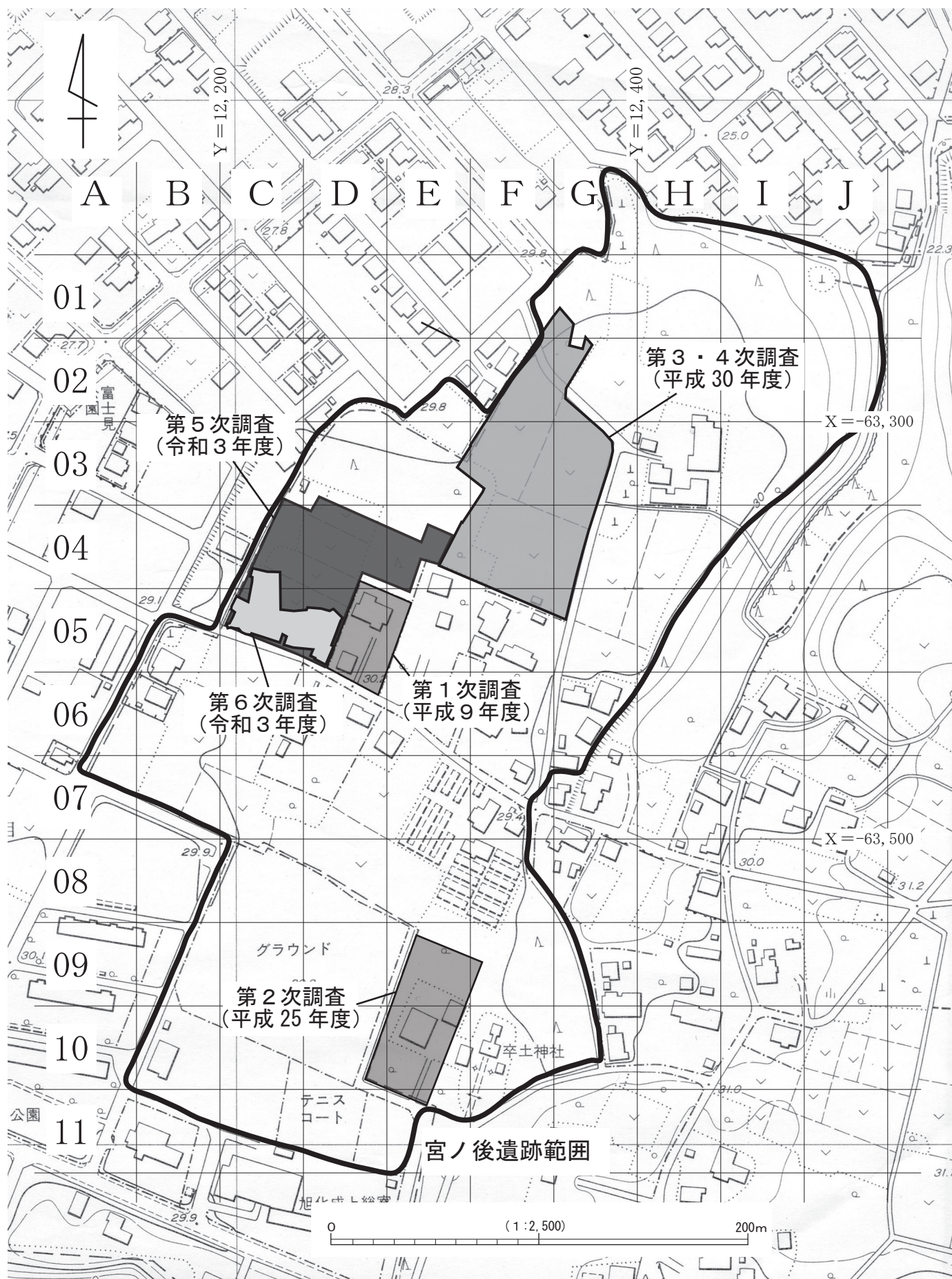
基本層序は、調査区の中央からやや北東側の地点に設定し観察を行った。

観察結果は、Ⅰ：現表土、Ⅱ a ～ b：耕作土、Ⅱ c：ソフトローム漸移層、Ⅲ：ソフトローム層、Ⅳ：ハードローム層である。調査区全体は過去に畑地として利用されていたこともあり、一部は耕作に伴う削平の影響を受けていた。

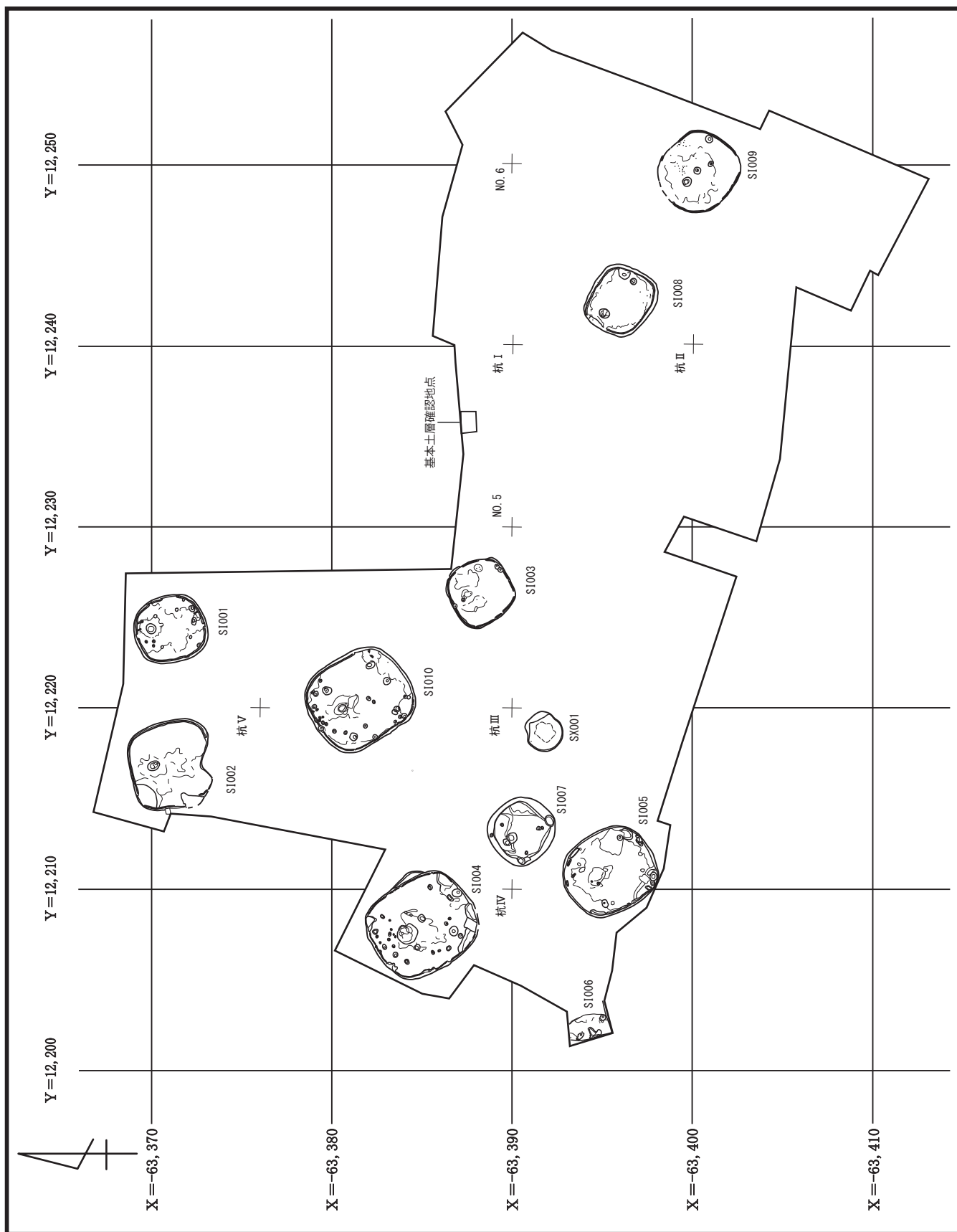
宮ノ後遺跡（6）基本土層



第3図 宮ノ後遺跡（6）基本土層図



第4図 宮ノ後遺跡 遺跡全体図 (1 : 2,500)



第5図 宮ノ後遺跡（6）調査区全体図（1：300）

第2章. 検出された遺構と遺物

第1節. 調査の概要（第4・5図）

第6次調査は率土神社の北側、400 mの畑地であり、宮ノ後遺跡範囲の中央部の南西端に位置する。令和3年7月～8月にかけての確認調査（第5次調査）の結果に基づいて本調査範囲を決定し、1,133.18 m²の本調査（第6次調査）を実施した。

調査区からは、弥生時代後期から古墳時代前期と推察される住居が10軒、性格不明遺構1基を検出した。

出土遺物は弥生土器、古墳時代土師器、石製品、鉄製品、土製品、礫が出土した。

調査対象区域北東側で、第4次調査より弥生時代後期の方形周溝墓と古墳が確認されており、今回の調査では住居跡が検出された。住居跡は、他の住居跡とは重複することなく分布している状況を確認した。

また、当遺跡に隣接する谷ノ台遺跡や山王台遺跡の集落と地理的、時期的も近いこともあり、関連性が推察される。

第2節. 遺構と遺物

（1）竪穴住居跡

SI001（第6図、第1表、図版1・7）

位置 調査区北西に位置する。西側にSI002が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸円形を呈し、主軸方向はN-20°-Eを指す。規模は南北4.0 m×東西3.7 mで、壁高は西壁付近で21 cmを測る。床面は住居の中央部全域に硬化面が炉の周辺を除いてみられる。

また、覆土上面は耕作の影響で削平されている。

燃烧施設 炉跡はPit 1及びPit 2の直線よりやや北側でPit 2よりに位置する。炉跡は長軸64 cm、短軸55 cmで楕円形を呈する。壁面及び地山付近まで被熱を受けている特徴がある。また炉跡からは、ほぼ完形の土器などが出土している。

付属施設 Pitは7基検出された。Pit 1～4までが支柱穴と推定される。その他、Pit 5から7までは掘方から検出した。またPit 6が出入り口付近より確認されたことから、出入り口施設に伴う柱穴と推定される。そのほか炉付近では小穴を検出している。

床面からの深さは、Pit 1から4は20 cm、Pit 5は19 cm、Pit 6は23 cm、Pit 7は26 cmを測る。壁周溝は幅10 cm、深さ15～20 cm程度で南東部の一部を除いて、ほぼ全体を巡っている。

出土遺物 弥生土器 402.16 g、土師器 402.46 g、軽石・礫 13.7 gが出土した。

1～3がSI001住居内から出土し図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・鉢 法量：口径8.3 cm、器高3.5 cm、底径4.9 cm、重量67.28 g 色調：黄褐色

技法：外面ハケ状工具によるヘラケズリ、底面はヘラナデ調整、内面上半部ヘラナデ調整

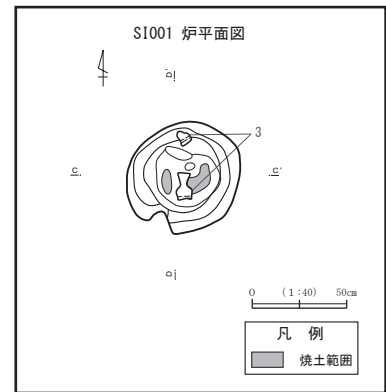
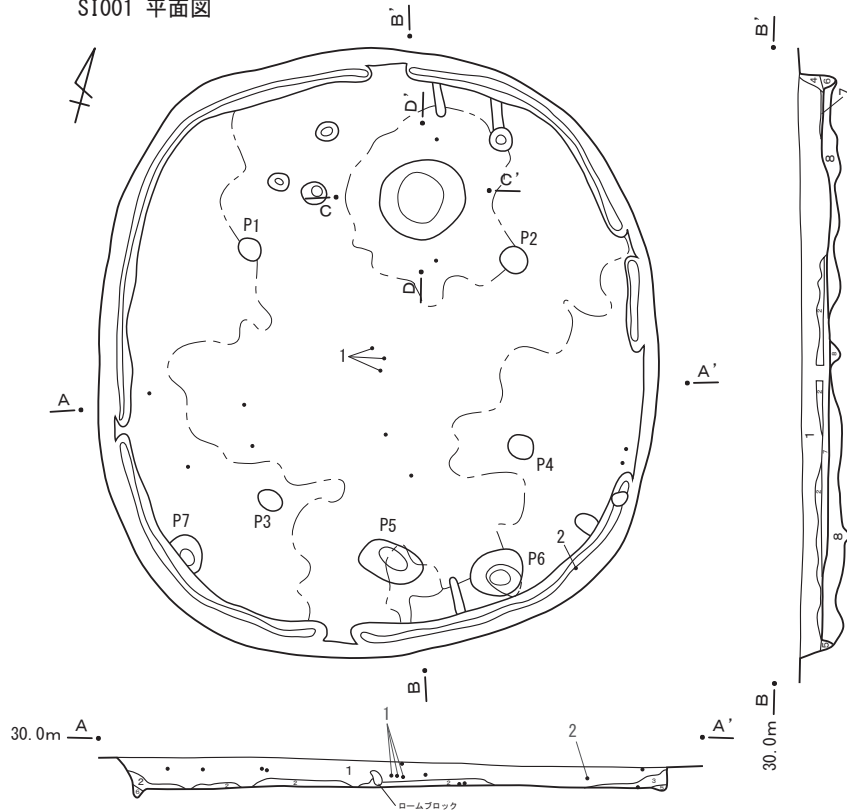
2. 弥生土器：器種・鉢 法量：口径13.9 cm、器高7.7 cm、底径5.8 cm、重量212.30 g 色調：暗褐色

技法：外面ヘラケズリ後にナデ調整、底面はヘラナデ後にミガキ調整、内面は横方向にヘラナデ後に縦方向にミガキ調整

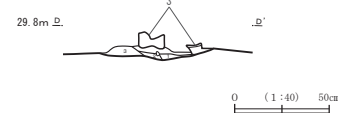
3. 弥生土器：器種・小型台付甕 法量：口径 10.2 cm、器高 14.7 cm、底径 7.2 cm、重量 224.82 g

色調：黄褐色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、頸部輪積み痕、下端部ハケメ後ヘラケズリ後にヘラナ
デ調整、内面ヘラナデ調整

SI001 平面図



SI001 炉セクション図

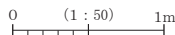


SI001 炉セクション

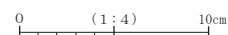
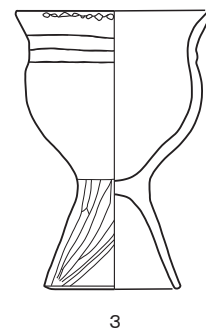
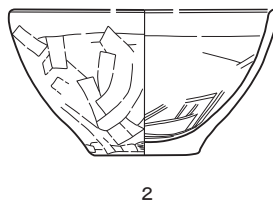
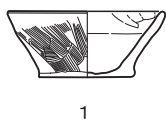
1. 暗赤褐色土（赤色焼土粒子を微量含む しまりなし）
2. 赤褐色土（赤色焼土粒子主体 しまりあり 粘性なし）
3. 黄白色土（黄色粘土粒子を含む しまり・粘性あり）

SI001 セクション

1. 暗褐色土（ローム粒子 1mm～5mmを少量含む しまりあり）
2. 褐色土（ロームブロック 5mm微量含む しまりとともあり）
3. 褐色土（ローム粒子を少量含む）
4. 暗褐色土（ロームブロック 7mm微量、明るい褐色土微量に含む しまりややあり）
5. 明褐色土（褐色土を若干含む しまりややあり）
6. 褐色土（ロームブロック、ローム粒子若干含む しまりややあり）
7. 暗褐色土（貼床の上面（硬化面）、ロームブロック 10mm多く含む）
8. 暗褐色土（貼床、ロームブロックを斑状に含む しまりややあり）



SI001 出土遺物



第6図 宮ノ後遺跡（6）SI001 遺構図・出土遺物

SI002 (第7・8図、第1表、図版2・7・8)

位置 調査区北西に位置する。東側に SI001 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸方形を呈している。主軸方向は N - 13° - E を指す。

規模は南北推定 4.5 m × 東西 4.8 m 程度で、壁高は東壁付近で 11 cm を測る。床面は住居中央部から東側全体に硬化面がみられる。その他、北西端周辺においても硬化した面が露出している。また、住居の南部は耕作などの影響で削平されている。

燃烧施設 炉跡は住居中央部よりやや北東側に位置する。炉跡は長軸 60 cm、短軸 50 cm 程度で、楕円形を呈する。壁面及び地山付近まで被熱を受けている特徴がある。

付属施設 Pit は 6 基検出された。Pit 2 ～ 6 は掘方より検出された。Pit 2 は支柱穴と推定されるが、他の支柱穴は検出できなかった。また、住居南部の Pit 3 は、出入り口施設に伴う柱穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 18 cm、Pit 2 は 26 cm、Pit 3 は 8.7 cm、Pit 4 は 25 cm、Pit 5 は 12 cm、Pit 6 は 10 cm を測る。壁周溝は幅 10 ～ 15 cm、深さ 10 ～ 20 cm 程度で削平を受けている箇所を除いてほぼ全体で確認されている。また、住居の南西端では土器の集積が確認された。

出土遺物 弥生土器 1,798.57 g、土師器 6,188.63 g、軽石・礫 47.35 g が出土した。

1 ～ 11 が SI002 住居内から出土し図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・鉢 法量：口径 (9.7) cm、器高 3.3 cm、底径 6.5 cm、重量 115.40 g

色調：灰黄褐色 技法：外面ヘラミガキ調整、底面ヘラミガキ後ヘラナデ調整、内面上半部ヘラミガキ調整

2. 弥生土器：器種・甕？ 法量：器高 (4.8) cm、底径 8.7 cm、重量 363.93 g

色調：にぶい黄褐色 技法：外面ヘラケズリ後ヘラナデ、ヘラミガキ調整、底面木葉痕、内面ヘラミガキ調整、被熱痕

3. 弥生土器：器種・壺 法量：器高 (5.8) cm、底径 6.0 cm、重量 207.35 g

色調：黄褐色 技法：外面ヘラミガキ調整、底部に刳痕？、内面ハケメ調整後にヘラナデ調整

4. 弥生土器：器種・台付甕の脚部 法量：器高 (8.5) cm、底径 10.2 cm、重量 262.21 g

色調：黄褐色 技法：外面縦方向ハケメ調整、内面横方向ハケメ調整

5. 弥生土器：器種・炉器台の脚部？ 法量：器高 (8.9) cm、底径 12.7 cm、重量 261.83 g

色調：橙色 技法：外面縦方向のヘラナデ後にヘラミガキ調整、内面工具による縦方向ヘラミガキ調整

6. 古墳時代土師器：器種・甕 法量：器高 (12.2) cm、口径 21.2 cm、重量 152.33 g

色調：黄褐色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、体部横方向のハケメ調整、内面横方向のハケメ調整後にヘラナデ調整、一部に煤痕跡

7. 弥生土器：器種・広口壺？ 法量：器高 (17.0) cm、口径 30.1 cm、重量 566.21 g

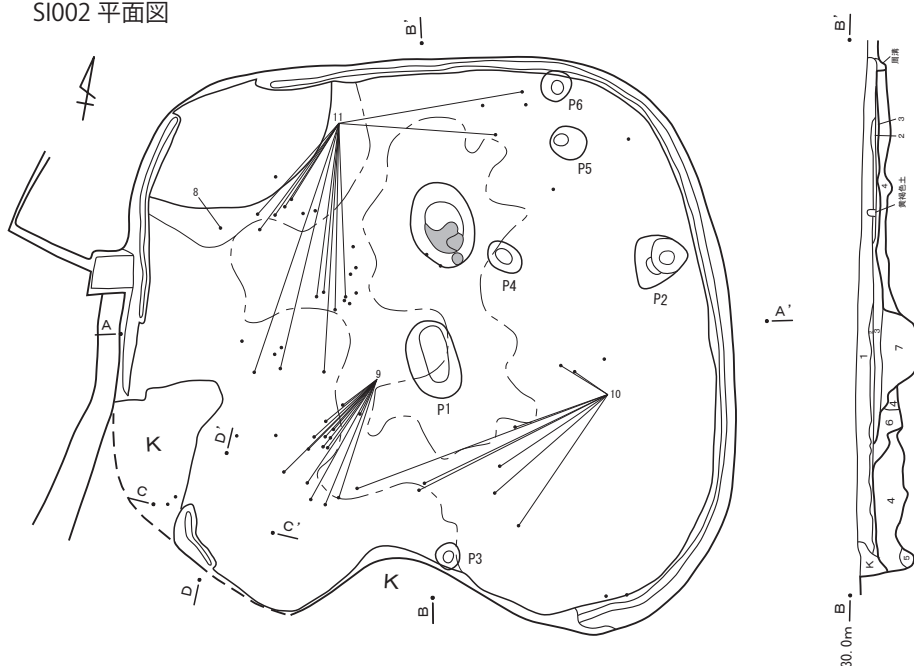
色調：黄褐色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、体部斜め方向のハケメ調整、内面上半横方向ハケメ、下半部はヘラナデ調整

8. 弥生土器：器種・台付甕 法量：器高 (18.3) cm、口径 20.4 cm、重量 1058.36 g

色調：褐色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、体部上半縦方向のヘラミガキ、体部下半斜め方向のハケメ後ヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整

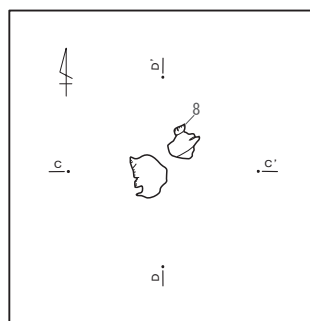
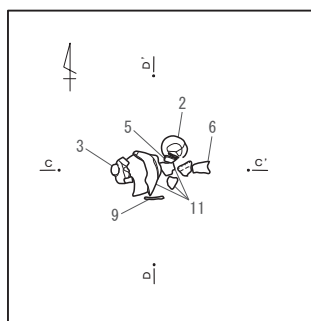
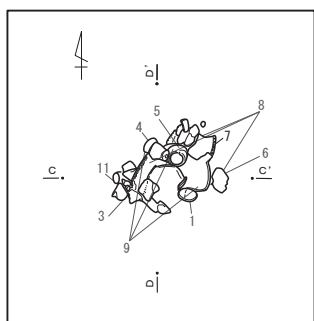
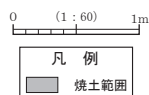
9. 弥生土器：器種・台付甕 法量：口径 20.1 cm、器高 24.7 cm、底径 10.1 cm、重量 1,294.58 g
色調：黒褐色 技法：外面口唇部キザミ、上半部ヘラケズリ後ナデ調整、下半部ヘラケズリ調整、内面上半部ヘラケズリ後ヘラナデ調整
10. 弥生土器：器種・広口壺？ 法量：器高（11.5）cm、底径 11.7 cm、重量 418.64 g
色調：黒褐色 技法：外面横方向ヘラミガキ、一部に輪積み痕と工具によるキザミ調整、下半部横方向ヘラミガキ調整、底面に木葉痕、内面ヘラケズリ後、横方向ヘラナデ調整
11. 古墳時代土師器：器種・台付甕 法量：口径 24.7 cm、器高 34.9 cm、底径 11.5 cm、重量 1,946.85 g 色調：暗褐色 技法：外面口唇部及び口縁部に工具によるキザミ、口縁部に縦方向ハケメ調整、体部横方向ハケメ調整、内面横方向ハケメ後にヘラナデ調整

SI002 平面図

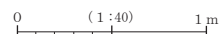


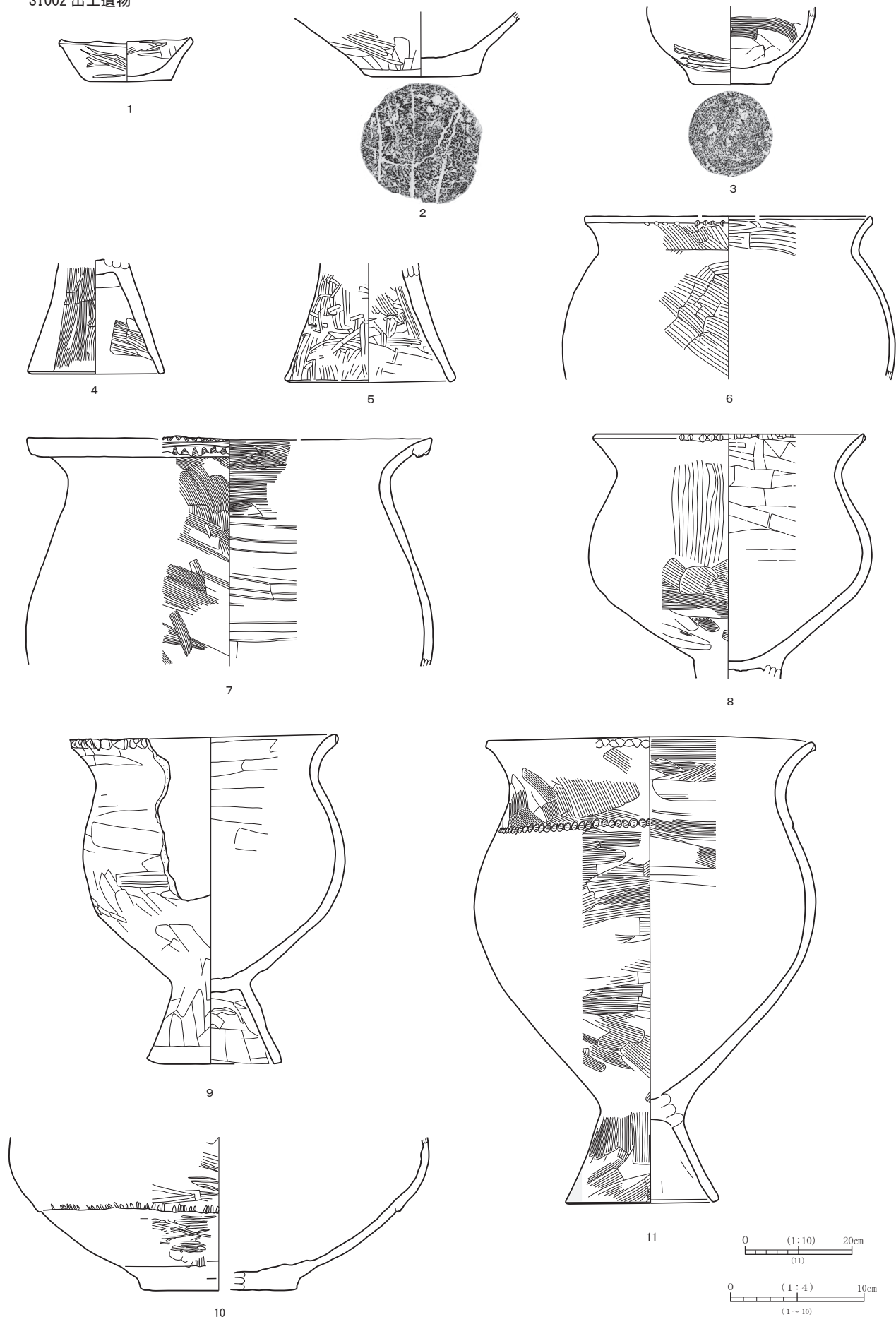
SI002 セクション

1. 暗褐色土（ローム粒子を少量含む しまりあり）
2. 暗茶褐色土（茶褐色土若干含む しまりとともあり）
3. 暗褐色土（硬化面 しまりとともあり）
4. 暗褐色土（ロームブロック 10～30 mm 多量含む、しまりややあり）
5. 褐色土（ロームブロック 40～10 mm 含む）
6. 暗褐色土（ローム粒子微量含む しまりややあり）
7. 暗褐色土（ローム粒子少量含む しまりややあり）
- ① 茶褐色土（しまりあり）



SI002 出土遺物微細図





第8図 宮ノ後遺跡（6）SI002 出土遺物

SI003 (第9・10図、第1表、図版2・8)

位置 調査区中央部に位置する。西側に SI010・SX001 が位置する。

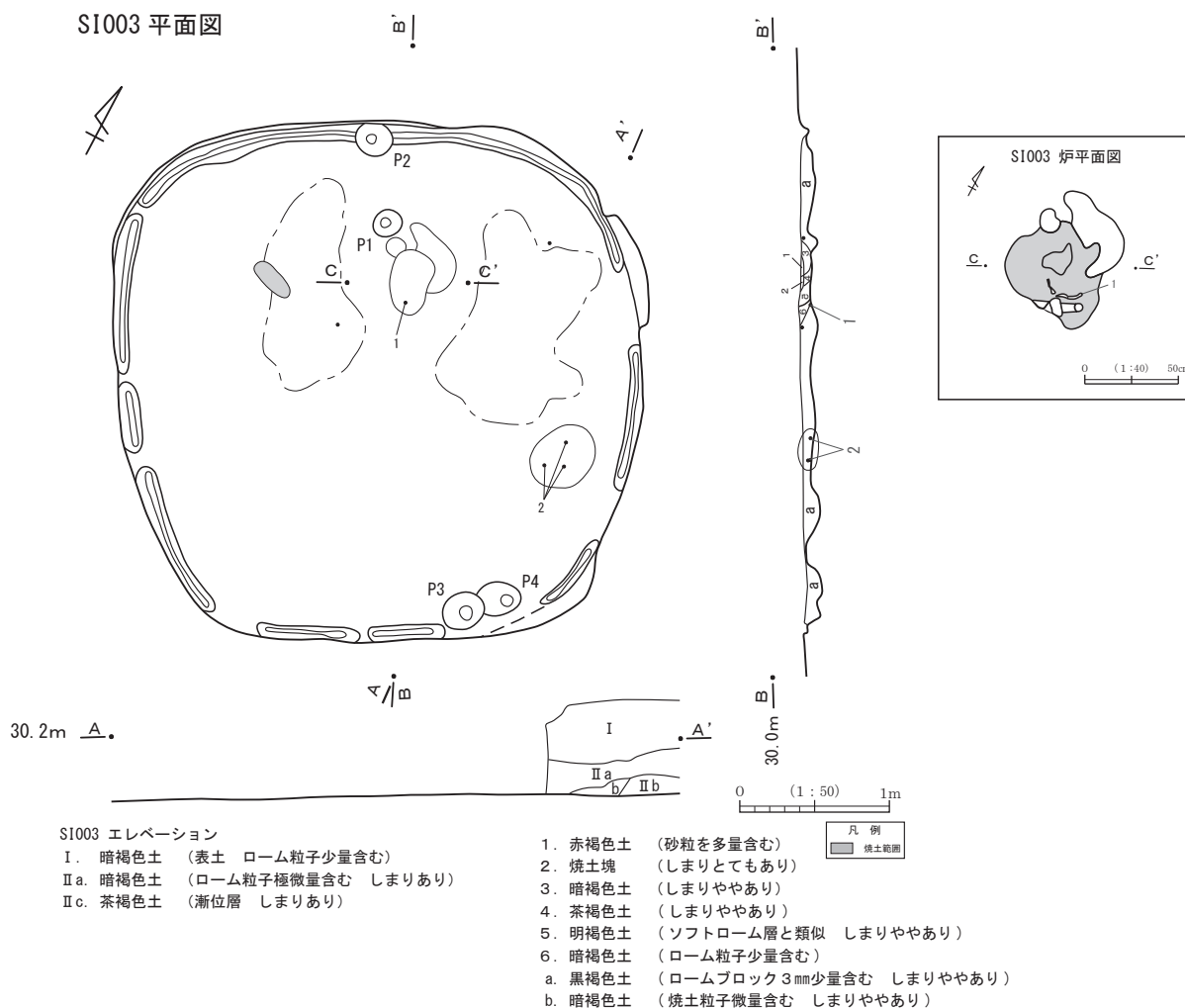
形態・規模 平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方向は N - 35° - E を指す。

規模は南北 3.5 m × 東西 3.5 m 程度で、壁高は東壁付近で 3 ～ 6 cm を測る。硬化面は北西部と北東部に 2 箇所、炉を隔ててみられる。住居上面は全体的に削平を受けている。

燃烧施設 炉跡は住居中央部よりやや北側に位置し、炉跡は長軸 55 cm、短軸 50 cm で、不正形な楕円を呈する。炉の北東部では径 1 cm 程度の軽石が集中して、南部からは土器が出土している。

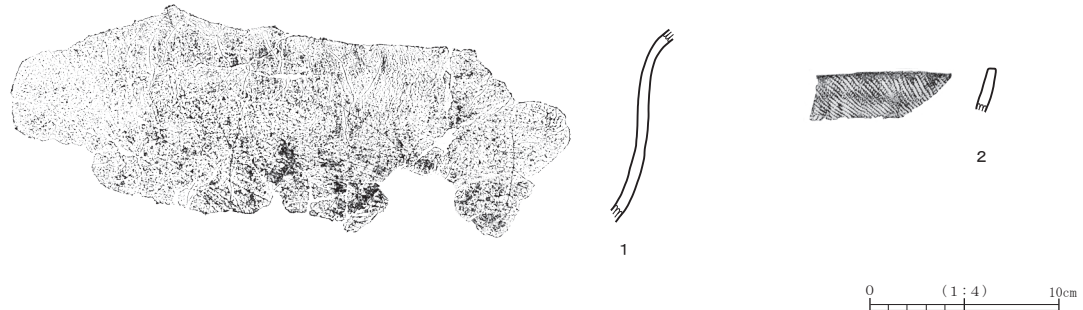
付属施設 Pit は 4 基検出された。主柱穴については確認できなかった。また、Pit 3 と掘方から検出された Pit 4 は出入り口施設に伴う柱穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 21 cm、Pit 2 は 9.4 cm、Pit 3 は 9.9 cm、Pit 4 は 7.8 cm を測る。壁周溝は幅約 10 ～ 15 cm、深さは西壁で約 40 cm 程度で南東端を除いて、ほぼ全体で確認されている。

出土遺物 弥生土器 168.32 g、土師器 212.88 g、土製品・軽石 78.28 g が出土した。1 ～ 2 が SI003 住居内から出土し図化した遺物である。 1. 弥生土器：器種・鉢？ 重量 215.20 g 色調：暗褐色 技法：外面上半部縦方向ヘラナデ、下半部斜め方向ヘラナデ調整、内面横方向ヘラナデ調整
2. 弥生土器：器種・鉢？ 重量 13.87 g 色調：暗褐色 技法：外面斜縄文 RL、内面横方向ヘラナデ調整



第9図 宮ノ後遺跡(6) SI003 遺構図

SI003 出土遺物



第 10 図 宮ノ後遺跡（6）SI003 出土遺物

SI004 (第 11・12 図、第 1 表、図版 2・3)

位置 調査区中央西端部に位置する。南西側に SI006、南東側に SI007 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸長方形を呈し、主軸方向は $N - 33^{\circ} - E$ を指す。

規模は南北 5.9 m × 東西 5.3 m 程度で、壁高は東壁付近で 46 cm を測る。硬化面は炉の周辺を除いて住居全体に広がる。また住居の南西端は一部削平を受けている

燃烧施設 炉跡は住居中央部よりやや北東側に位置している。炉跡は長軸 1.2 m、短軸 1.1 m 程度で、不正形な楕円を呈する。炉の西部からは土器が出土している。

付属施設 Pit は 14 基検出された。Pit 1 から 4 は主柱穴と推定され、Pit 6 は出入り口施設に伴う柱穴または貯蔵穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 5.9 cm、Pit 2 は 54 cm、Pit 3 は 41 cm、Pit 4 は 3 cm、Pit 5 は 2.6 cm、Pit 6 は 36 cm、Pit 7 は 1.2 cm、Pit 8 は 12 cm、Pit 9 は 6.5 cm、Pit10 は 1.8 cm、Pit11 は 8.3 cm、Pit12 は 3 cm、Pit13 は 3.5 cm、Pit14 は 4.4 cm、Pit15 は 3.4 cm を測る。壁周溝は幅 20 cm、深さ 40 ～ 50 cm 程度で削平を受けている南西側を除いて、ほぼ全体で確認されている。

出土遺物 弥生土器 2,272.96 g、土師器 134.38 g、土製品・軽石・礫 62.5 g が出土した。

1 ～ 3 が SI004 住居内から出土し図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・台付甕 法量：器高 (3.7) cm、重量 95.29 g

色調：黄褐色 技法：外面縦方向ハケメ調整、内面ヘラミガキ調整

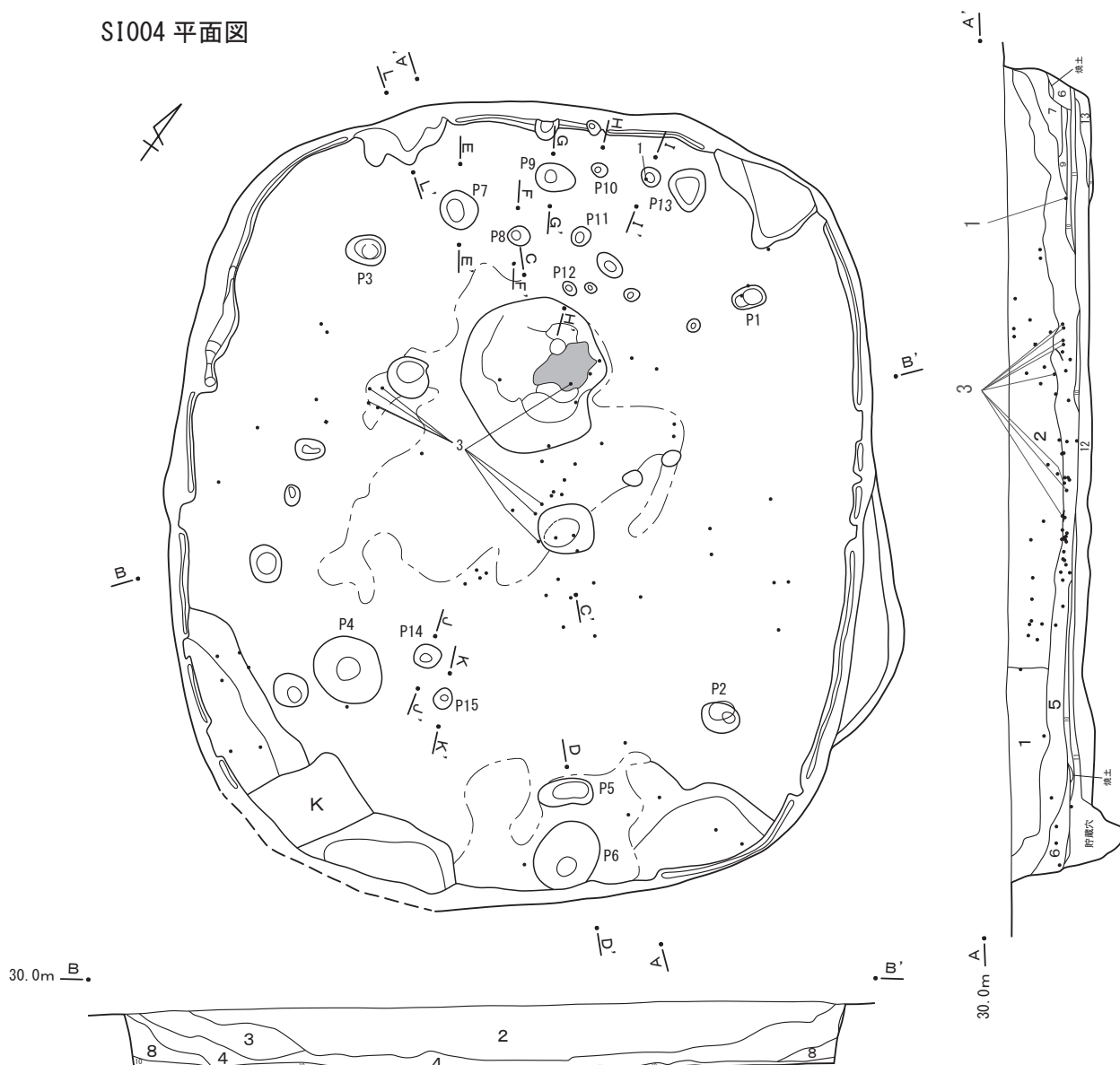
2. 弥生土器：器種・壺？ 法量：器高 (6.8) cm、底径 6.3 cm、重量 231.30 g

色調：黄褐色 技法：外面赤彩、ヘラケズリ後ヘラミガキ調整、底面磨滅、内面ヘラナデ調整、被熱痕

3. 弥生土器：器種・台付甕？ 法量：器高 (21.7) cm、口径 11 cm、重量 402.48 g

色調：黒褐色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、体部横方向ヘラケズリ後、ヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後ヘラナデ調整

SI004 平面図



SI004 セクション

1. 暗褐色土 (攪乱 ロームブロック 1mmを微量、灰褐色土をブロック状に含む)
2. 暗褐色土 (ローム粒子少量、炭化粒子微量含む しまりあり)
3. 茶褐色土 (ローム粒子斑状、ロームブロック 1mm少量含む しまりややあり)
4. 茶褐色土 (ローム粒子斑状、ロームブロック少量含む、しまりややあり)
5. 茶褐色土 (ロームブロック 2～1mm少量、炭化粒子微量含む しまりややあり)
6. 黒褐色土 (ローム粒子少量含む しまりややあり)
7. 茶褐色土 (ローム粒子少量、ロームブロック 1mm微量、炭化粒子多量含む しまりややあり)
8. 茶褐色土 (ローム粒子若干、ロームブロック 5mm微量含む しまりあり)
9. 暗褐色土 (ローム粒子微量、ロームブロック 5mm微量含む しまりあり)
10. 茶褐色土 (硬化面直上 ローム粒子微量、ロームブロック微量含む しまりあり)
11. 暗褐色土 (硬化面 ロームブロック 5～1mm若干含む)
12. 褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 5～1mm若干含む しまりややあり)
13. 褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 5～1mm少量含む しまりややあり)
14. 褐色土 (ロームブロック 5～1mm多量含む しまりややあり)

0 (1:50) 1m



第 11 図 宮ノ後遺跡 (6) SI004 遺構図

SI004 炉セクション



SI004 炉セクション

1. 暗褐色土 (ロームブロック 3mm極微量含む しまりややあり)
2. 赤褐色土 (淡い赤色少量、暗褐色土少量、灰微量含む しまりややあり)
3. 暗褐色土 (焼土ブロック 5mm微量含む しまりあり)
4. 茶褐色土 (ローム粒子少量含む しまりあり)
5. 暗褐色土 (ローム粒子少量含む しまりあり)
6. 暗黄褐色土 (ロームブロック 5～1mm多量含む しまりあり)

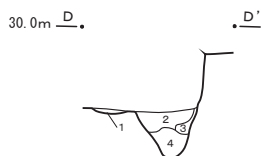
SI004 住居西壁セクション



SI004 住居西壁セクション

1. 赤褐色土 (焼土ブロック含む しまりあり)
2. 暗黄褐色土 (ローム粒子多量、焼土粒子微量含む しまりややあり)
3. 暗褐色土 (炭、焼土粒子微量含む しまりややあり)
4. 褐色土 (ローム粒子、黒色粒子斑状、焼土粒子微量含む しまりややあり)
5. 暗褐色土 (黒色粒子少量、ロームブロック 7～5mm若干含む しまりあり)
6. 褐色土 (ローム粒子、黒色粒子微量含む しまりとてもあり)

SI004 Pit5・6 セクション



SI004 Pit5 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子極微量含む しまりとてもあり)
2. 暗褐色土 (ロームブロック 1mm極微量含む)
3. 茶褐色土 (ローム粒子、ロームブロック 5～3mm若干含む)
4. 暗褐色土 (ロームブロック 1mm少量含む)

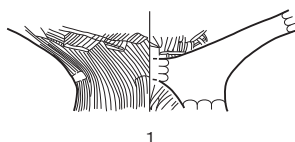
SI004 Pit7 セクション



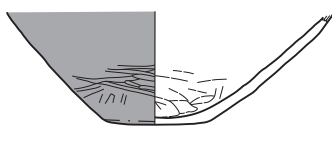
SI004 Pit7 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子極微量含む しまりあり 底面硬化面あり)

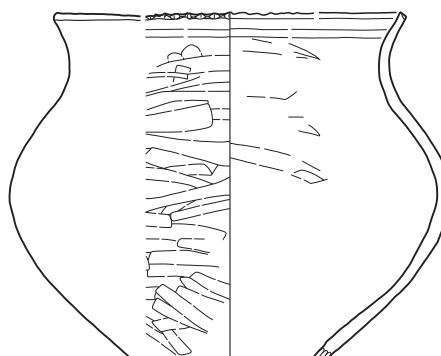
SI004 出土遺物



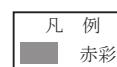
1



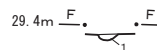
2



3



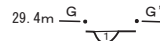
SI004 Pit8 セクション



SI004 Pit8 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子極微量含む しまりあり 硬化面あり)

SI004 Pit9 セクション



SI004 Pit9 セクション

1. 暗褐色土 (焼土粒子、ローム粒子極微量含む しまりあり 底面硬化)

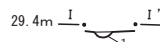
SI004 Pit11 セクション



SI004 Pit11 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子微量含む しまりとてもあり)
2. 暗褐色土 (ローム粒子微量含む しまりややあり)
3. 暗黒色土 (しまりなし)

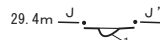
SI004 Pit13 セクション



SI004 Pit13 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子微量含む しまりあり 硬化面あり)

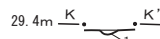
SI004 Pit14 セクション



SI004 Pit14 セクション

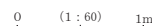
1. 茶褐色土 (ローム粒子微量含む しまりややあり 硬化面あり)

SI004 Pit15 セクション



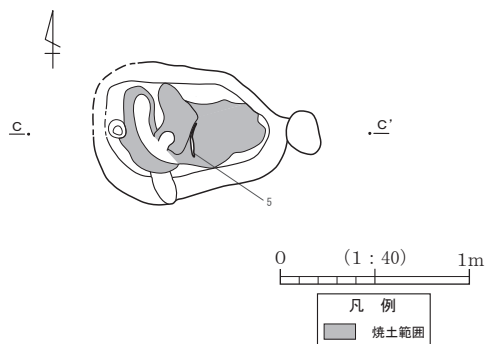
SI004 Pit15 セクション

1. 茶褐色土 (ローム粒子微量含む しまりややあり)



第 12 図 宮ノ後遺跡 (6) SI004 遺構図・出土遺物

SI005 炉平面図



SI005 炉セクション



SI005 炉セクション

1. 褐色土 (ロームブロック 5 cm微量含む しまりあり)
2. 暗黒褐色土 (ローム粒子極微量含む しまりあり)
3. 暗褐色土 (pit 覆土 焼土粒子微量含む しまりややあり)
4. 暗黒褐色土 (ローム粒子少量含む しまりややあり)
5. 褐色土 (ローム粒子少量含む しまりややあり)
6. 暗赤褐色土 (焼土ブロック 5～1 mm少量、黒色粒子微量含む しまりあり)
7. 暗黄褐色土 (焼土粒子微量、ローム粒子多量含む しまりあり)
8. 褐色土 (焼土粒子微量、黒色粒子少量、ローム粒子 5～2 mm少量含む しまりややあり)
9. 淡灰褐色土 (粘土粒子、黒色粒子、焼土粒子少量含む)
10. 暗赤褐色土 (焼土粒子主体、黒色粒子、灰微量含む)
11. 淡赤褐色土 (焼土粒子、灰多量含む しまりややあり)
12. 赤褐色土 (赤色焼土ブロック主体、ローム粒子微量含む しまりあり)

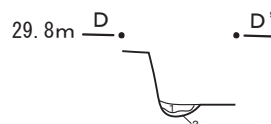
SI005 溝 1 セクション



SI005 溝 1 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子少量含む しまりあり)

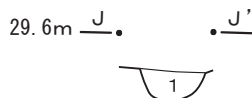
SI005 溝 2 セクション



SI005 溝 2 セクション

1. 暗黒褐色土 (ローム粒子微量含む しまりあり)
2. 暗褐色土 (ローム粒子少量含む しまりややあり)

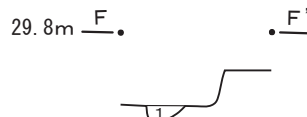
SI005 Pit6 セクション



SI005 Pit6 セクション

1. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 1 cm微量含む しまりあり)

SI005 Pit7 セクション



SI005 Pit7 セクション

1. 暗黒褐色土 (茶褐色の硬い土含む しまりややあり)

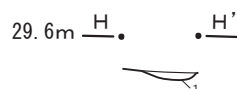
SI005 Pit8 セクション



SI005 Pit8 セクション

1. 明褐色土 (黒色土少量含む)
2. 茶褐色土 (ローム粒子少量含む)

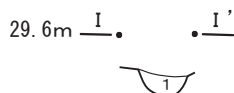
SI005 Pit9 セクション



SI005 Pit9 セクション

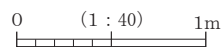
1. 茶褐色土 (黒色土、ローム粒子若干含む しまりあり)

SI005 Pit10 セクション

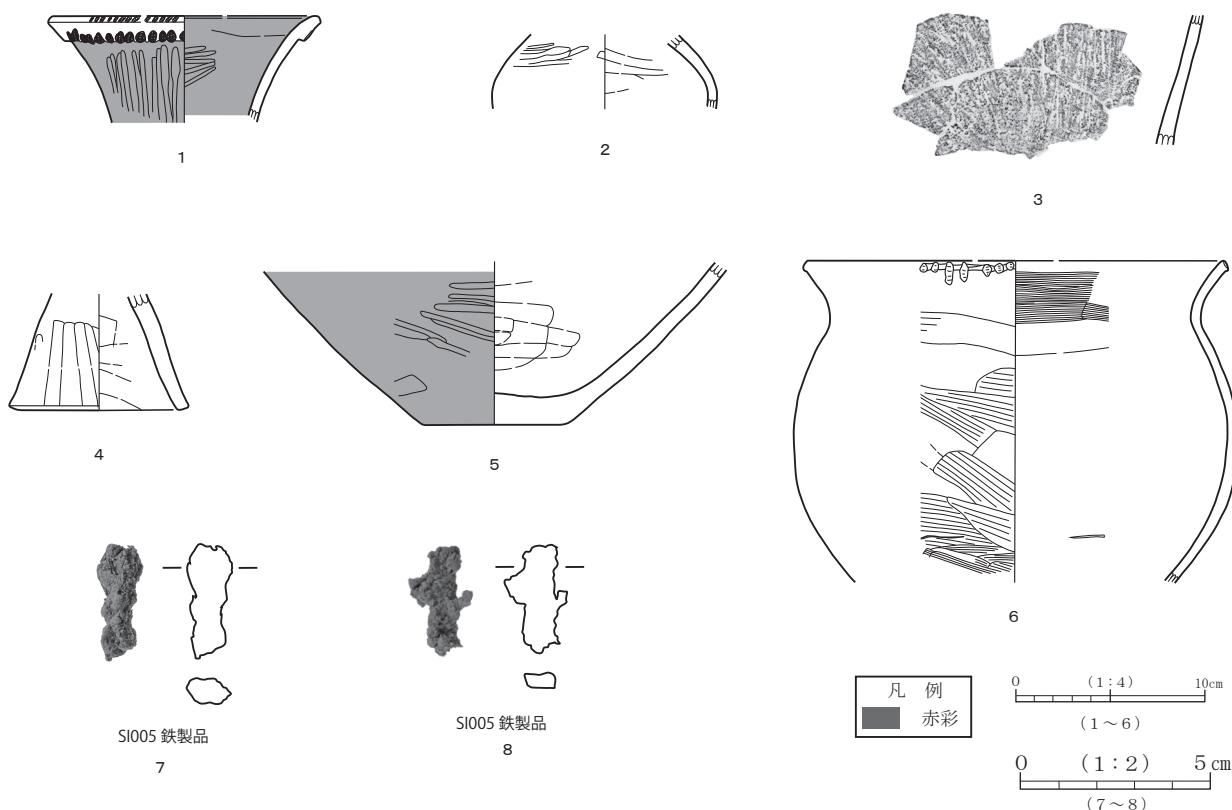


SI005 Pit10 セクション

1. 暗褐色土 (ローム粒子少量、ロームブロック 1～3 mm微量含む)



SI005 出土遺物



第 15 図 宮ノ後遺跡（6）SI005 出土遺物

出土遺物 弥生土器 1,263.81 g、土師器 720.83 g、鉄製品・軽石・礫 148.03 g が出土した。

1～8 が SI005 住居から出土し図化した遺物である。7～8 は鉄製品であり、8 に関しては出土位置の土層より住居には共伴しない可能性も推定される。

1. 弥生土器:器種・壺 法量:口径 (14.2) cm、器高 (5.6) cm、重量 75.87 g 色調:にぶい黄褐色 技法:外面口唇部縄文、体部赤彩、縦方向ヘラミガキ調整、内面横方向ヘラミガキ後にヘラナデ調整

2. 弥生土器:器種・壺? 法量:器高 (3.9) cm、重量 49.19 g 色調:にぶい黄褐色 技法:外面横方向ヘラケズリ後に、ヘラミガキ調整、内面横方向ヘラナデ調整

3. 弥生土器:器種・甕? 重量 67.04 g 色調:橙色 技法:外面ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後ヘラナデ調整

4. 弥生土器:器種・台付甕 法量:器高 (61.5) cm、底径 (9.4) cm、重量 50.29 g 色調:暗黄褐色 技法:外面縦方向ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面横方向ヘラケズリ後ヘラナデ調整

5. 弥生土器:器種・壺 法量:器高 (8.6) cm、底径 (7.8) cm、重量 237.35 g 色調:暗橙色 技法:外面赤彩、ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面ヘラナデ調整

6. 弥生土器:器種・甕 法量:器高 (17.0) cm、口径 (22.0) cm、重量 248.38 g 色調:褐色 技法:外面口唇部キザミ、体部ハケメ後ヘラナデ調整、内面ハケメ後ヘラナデ調整

7. 鉄製品:法量:長さ 30 mm、幅 12 mm、厚 10 mm、重量 3.57 g 色調:黒赤褐色

8. 鉄製品:法量:長さ 29 mm、幅 17 mm、厚 6 mm、重量 1.52 g 色調:黒赤褐色

SI006 (第 16・17 図、第 1 表、図版 3・9)

位置 調査区西端に位置する。北側に SI004、東側に SI005 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸長方形を呈すると推定され、今回はその北東部の検出と調査に留まっている。規模は南北 2.3 m 以上×東西 1.3 m 以上で、壁高は南壁付近で 45 cm、西壁で 46 cm を測る。硬化面は住居中央部を中心に広がる。

燃焼施設 住居西側が未検出のこともあり、検出されなかった。

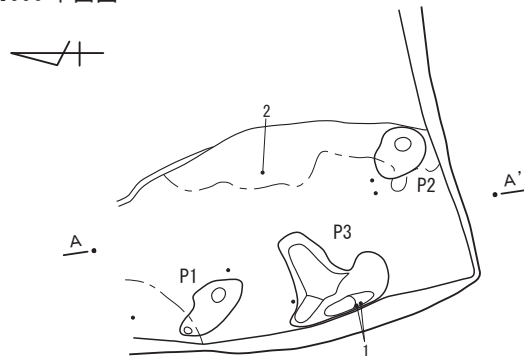
付属施設 Pit は 3 基検出された。Pit 1 は住居東側の支柱穴の 1 つと推定される。また、Pit 2 は掘方から検出した。床面からの深さは、Pit 1 は 16 cm、Pit 2 は 31 cm、Pit 3 は 31 cm を測る。壁周溝と推定されるものが住居北端の一部で確認した。幅は 5 cm で、深さは 2.4 cm を測る。

出土遺物 弥生土器 364.35 g、土師器 224.34 g が出土した。

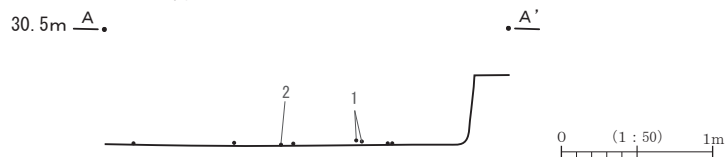
1～2 が SI006 住居内から出土し図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・鉢？ 法量：器高 (64.5) cm、口径 (20.8) cm、重量 104.42 g 色調：橙色 技法：外面口唇部赤彩、斜縄文 LR、体部横方向ヘラミガキ調整、内面赤彩、横方向ヘラナデ後ヘラミガキ調整
2. 弥生土器：器種・台付甕 法量：器高 (5.9) cm、重量 71.61 g 色調：灰黄褐色 技法：外面ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面横方向ヘラケズリ後ヘラナデ調整

SI006 平面図

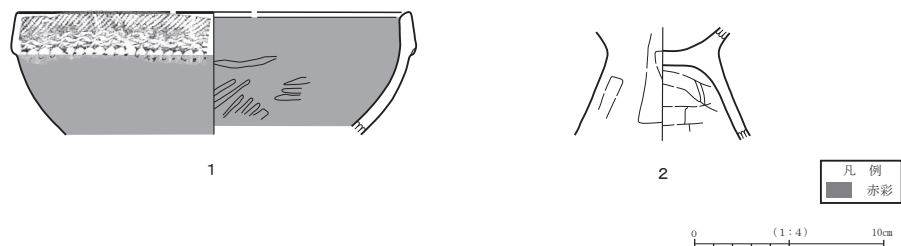


SI006 エレベーション図



第 16 図 宮ノ後遺跡 (6) SI006 遺構図

SI006 出土遺物



第 17 図 宮ノ後遺跡 (6) SI006 出土遺物

SI007 (第 18・19・20 図、第 1 表、図版 3・4・9)

位置 調査区西部に位置する。西側に SI004、東側に SX001、南側に SI005 が位置する。

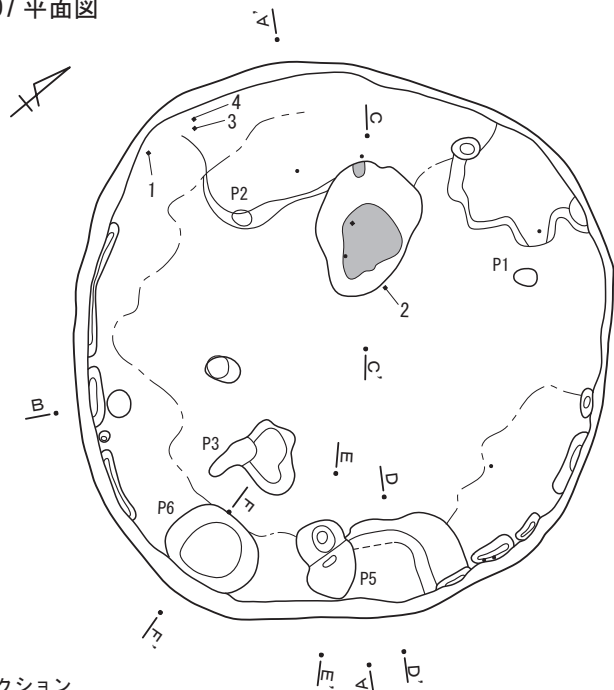
形態・規模 平面形態は隅丸楕円形で、主軸方向は N - 48° - E を指す。

規模は南北 3.5 m × 東西 3.6 m 程度で壁高は、東壁で 40 cm、西壁で 33 cm を測る。硬化面は炉の周辺を除いて住居中心部にみられる。住居の壁面は全体的に段差が付いている。

燃烧施設 炉跡は住居中央部よりやや北西側に位置する。炉跡は長軸 90 cm、短軸 60 cm 程度で、不正形な楕円を呈する。

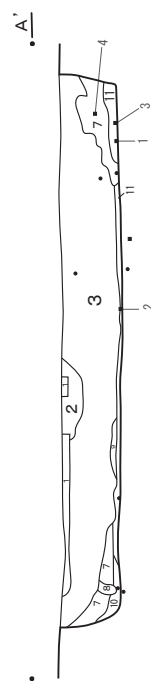
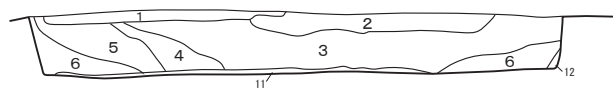
付属施設 Pit は 6 基検出された。Pit 1 ～ 4 は掘方から検出し、主柱穴と推定されるが、Pit 3 に直交する柱穴は確認できなかった。Pit 6 は貯蔵穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 25 cm、Pit 2 は 27 cm、Pit 3 は 25 cm、Pit 4 は 17 cm、Pit 5 は 11.7 cm、Pit 6 は 24 cm を測る。壁周溝は住居の北東部と南西部の一部のみ確認され、幅 5 ～ 10 cm、深さ 35 cm 程度である。

SI007 平面図



SI007 セクション

30.0m B.



30.0m A.

凡 例
焼土範囲

0 (1:50) 1m

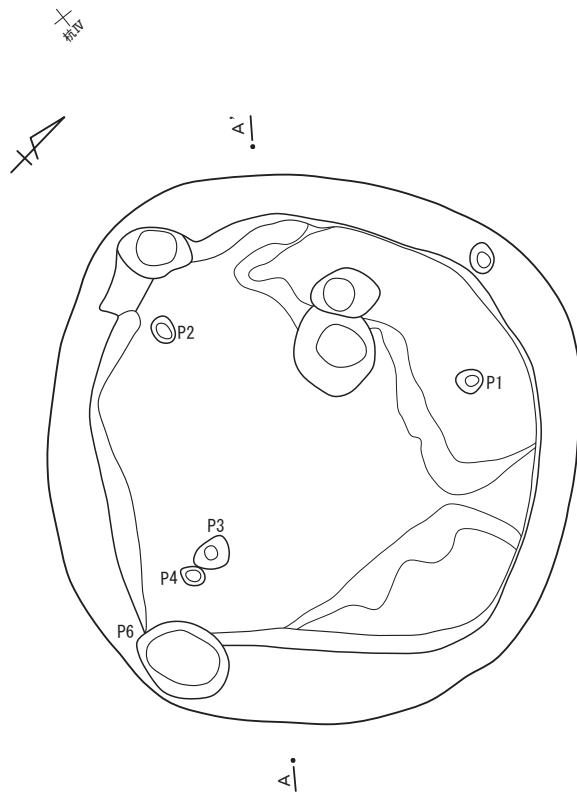
SI007 セクション

1. 暗褐色土 (ロームブロック 2 ～ 1 mm 少量含む しまりあり)
2. 茶褐色土 (ローム粒子若干、ロームブロック 5 ～ 1 mm 若干含む しまりややあり)
3. 暗黒褐色土 (ローム粒子若干、ロームブロック 1 cm ～ 1 mm 若干、ローム塊若干含む しまりあり)
4. 茶褐色土 (ローム粒子若干、ロームブロック 1 cm ～ 2 cm 微量含む しまりあり)
5. 暗黒褐色土 (ローム斑状に含む しまりややあり)
6. 暗黒褐色土 (ローム粒子 1 cm 微量含む)

7. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 1 cm 微量含む しまりあり)
8. 明茶褐色土 (暗褐色土少量含む しまりあり)
9. 茶褐色土 (ローム粒子微量含む しまりややあり)
10. 暗黒褐色土 (ロームブロック 1 cm 極微量含む しまりあり)
11. 茶褐色土 (ローム粒子微量含む しまりとてもあり)
12. 暗褐色土 (ローム粒子極微量含む)

第 18 図 宮ノ後遺跡 (6) SI007 遺構図

SI007 掘方平面図



SI007 掘方セクション

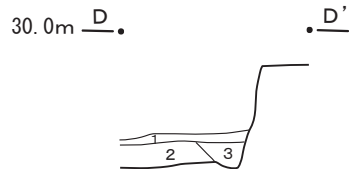
1. 暗褐色土 (硬化面：ロームブロック 1 cmを若干含む)
2. 黒褐色土 (ロームブロック 3～5 cmを多量に含む しまりあり)

SI007 掘方セクション



0 (1 : 50) 1m

SI007 住居入口セクション



SI007 住居入口セクション

1. 褐色土 (硬化面 ローム粒子少量含む しまりとともあり)
2. 暗褐色土 (ローム粒子、ロームブロック 1mm多量含む しまりややあり)
3. 黒褐色土 (ロームブロック 5mm微量含む しまりあり)

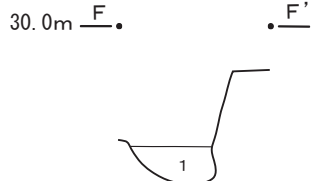
SI007 炉セクション



SI007 炉セクション

1. 暗褐色土 (焼土粒子微量含む しまりあり)
2. 茶褐色土 (焼土粒子微量含む しまりややあり)
3. 黒褐色土 (焼土粒子微量含む しまりややあり)
4. 赤褐色土 (灰含む しまりややあり)
5. 赤褐色土 (焼土ブロック 5mm少量含む しまりややあり)
6. 黒褐色土 (ロームブロック 7mm若干含む しまりあり)

SI007 Pit6 セクション



SI007 Pit6 セクション

1. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 2cm～3mm多量含む しまりややあり)

SI007 Pit5 セクション

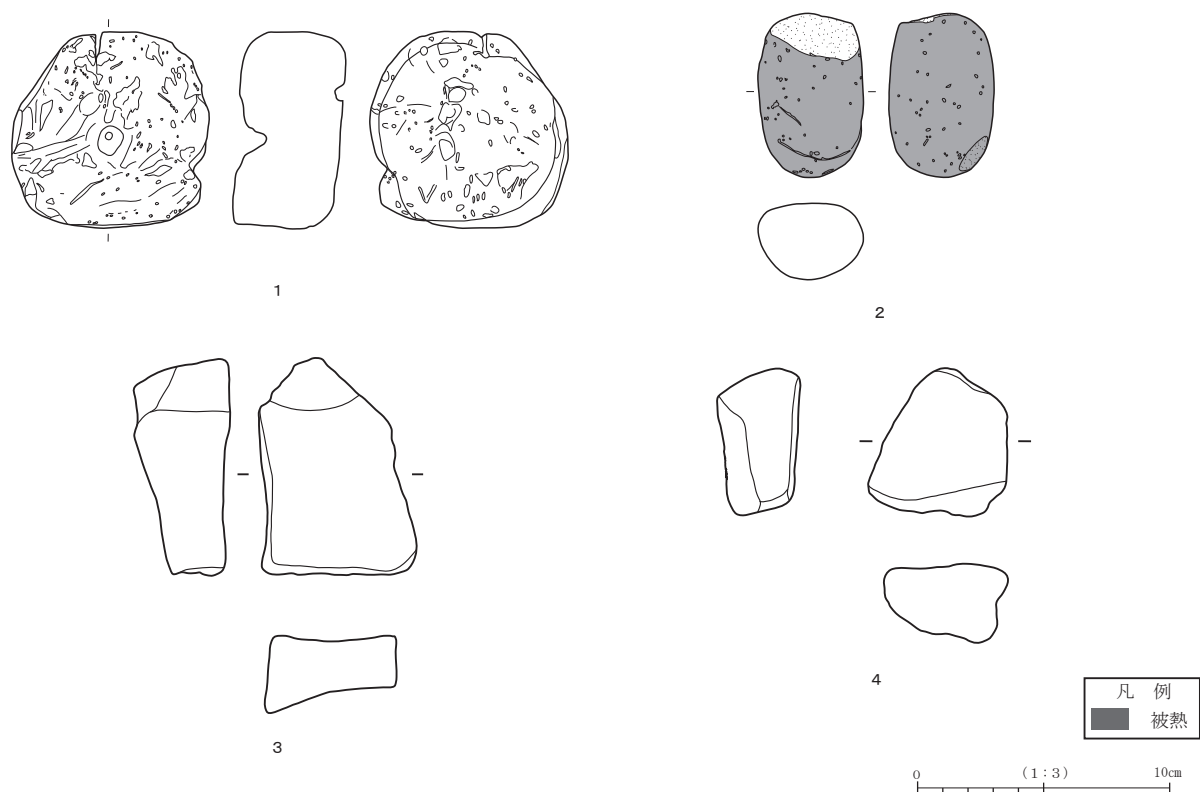


SI007 Pit5 セクション

1. 褐色土 (黒色粒子少量、ローム粒子多量含む しまりややあり)
2. 褐色土 (ロームブロック 7～2mm少量含む しまりあり)
3. 褐色土 (ロームブロック 7～3mm少量含む しまりややあり)
4. 明褐色土 (暗褐色土若干含む しまりややあり)

0 (1 : 40) 1m

SI007 出土遺物



第 20 図 宮ノ後遺跡（6）SI007 出土遺物

SI007 出土遺物 弥生土器 334.73 g、土師器 38.1 g、石器・軽石・礫 456.89 g が出土した。

1～4 が SI007 住居内から出土し図化した遺物である。

1. 石製品（砥石？）：材質：軽石 法量：長さ 7.8 cm、幅 7.7 cm、重量 59.86 g 色調：淡黄色

技法：外面中央部穿孔 備考：一部に使用による割目痕跡有

2. 石製品（焼石）：法量：長さ 6.43 cm、幅 4.18 cm、厚 3.08 cm、重量 121.52 g 色調：暗赤褐色

備考：全体的に被熱し、一部は磨滅している

3. 石製品（砥石？）：材質：軽石 法量：長さ 8.6 cm、幅 6.25 cm、厚 3.9 cm、重量 173.66 g

色調：灰白色 備考：使用による磨滅痕有

4. 石製品（砥石？）：材質：軽石 法量：長さ 5.9 cm、幅 5.5 cm、厚 3.3 cm、重量 78.5 g 色調：灰白色

備考：使用による磨滅痕有

SI008 (第 21・22 図、第 1 表、図版 4・9)

位置 調査区中央の東部に位置する。東側に SI009 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸長方形で、主軸方向は N - 56° - E を指す。

規模は南北 3.4 m × 東西 3.8 m 程度で、壁高は東壁で 56 cm、西壁で 50 cm を測る。硬化面は住居隅を除いて全体に広がる。

燃焼施設 炉跡は住居中央部よりやや北東側に位置している。炉跡は長軸 60 cm、短軸 50 cm 程度で、不正形な楕円を呈する。

付属施設 Pit は 2 基検出された。Pit 1 は出入り口施設に伴う柱穴と推定され、Pit 2 は貯蔵穴と推定される。Pit 1 は 28 cm、Pit 2 は 29 cm を測る。壁周溝は幅 10 cm、深さ 40 ～ 50 cm 程度でほぼ全体で確認されている。

出土遺物 弥生土器 639.45 g、土師器 82.64 g、軽石・礫 19.11 g が出土した。

1 ～ 5 が SI008 住居内から出土し図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・ミニチュア台付甕？ 法量：口径 (7.2) cm、器高 (6.4) cm、重量 27.86 g

色調：黒褐色 技法：外面口唇部キザミ、輪積み痕、体部ヘラケズリ後にヘラナデ調整、内面上半部ヘラケズリ後にヘラナデ調整、全体的に被熱し、煤が付着

2. 弥生土器：器種・甕？ 法量：器高 (8.36) cm、底径 9.2 cm、重量 225.75 g 色調：暗褐色 技法：外面ヘラケズリ後にヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整

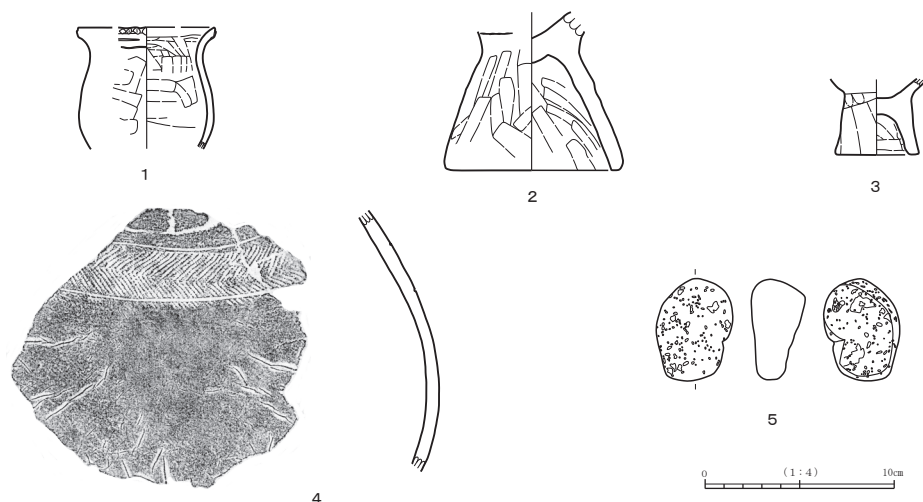
3. 弥生土器：器種・ミニチュア台付甕？ 法量：器高 (4.0) cm、底径 4.4 cm、重量 55.39 g 色調：黒褐色 技法：外面ヘラケズリ後にヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整、全体的に煤が付着

4. 弥生土器：器種・壺？ 重量 152.55 g 色調：橙色 技法：外面赤彩、縦方向ヘラミガキ調整、内面横方向ヘラナデ調整

5. 石製品 (砥石？)：材質：軽石 法量：長さ 5.4 cm、幅 4.0 cm、重量 9.03 g 色調：灰白色

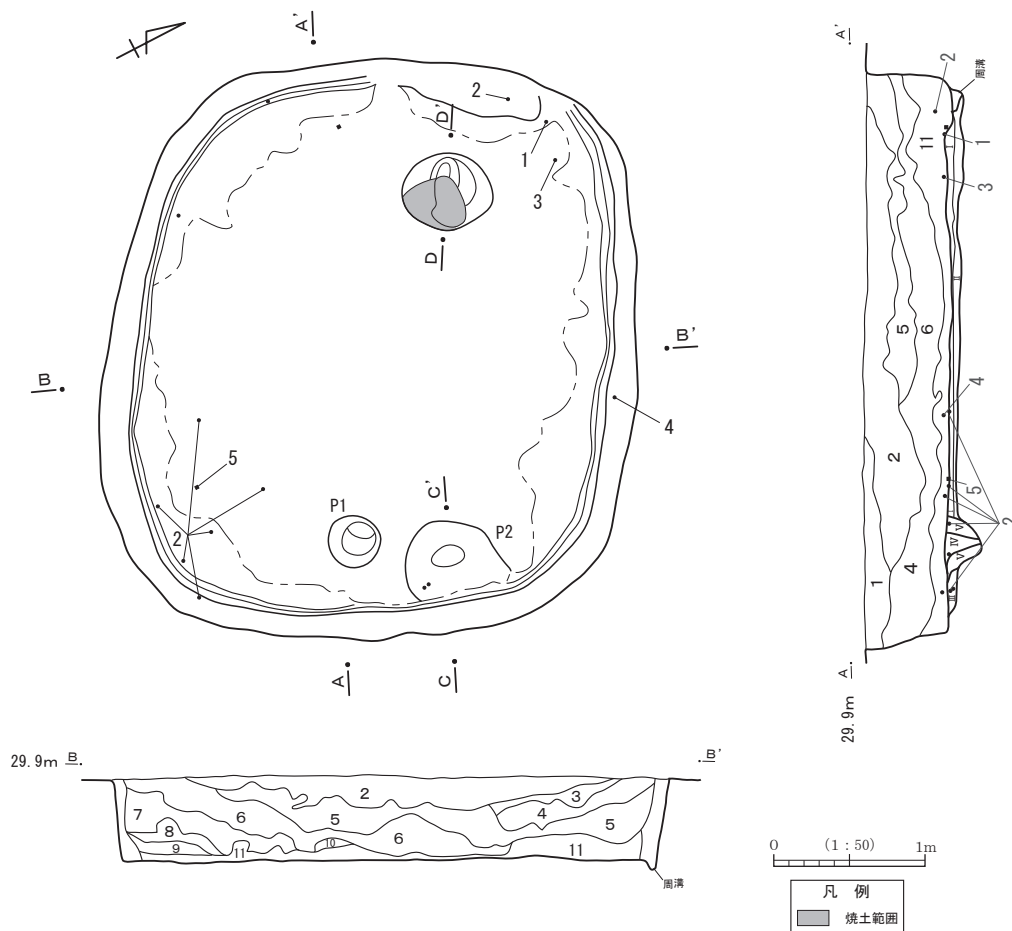
備考：一部に使用による割目痕有

SI008 出土遺物



第 21 図 宮ノ後遺跡 (6) SI008 出土遺物

SI008 平面図

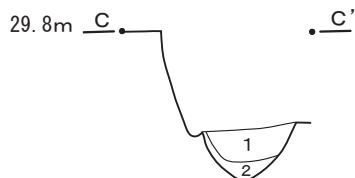


SI008 セクション

1. 黒色土 (ローム粒子若干含む しまりややあり)
2. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック少量含む しまりややあり)
3. 暗褐色土 (ロームブロック 3～1 cm 若干含む しまりややあり)
4. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 2 cm～5 mm 含む しまりややあり)
5. 黒色土 (ローム粒子少量、ロームブロック 2～1 cm 含む しまりややあり)
6. 茶褐色土 (ローム粒子多量、ロームブロック 5～1 cm しまりややあり)
7. 黒色土 (ロームブロック 1 cm 微量含む しまりややあり)
8. 茶褐色土 (ローム粒子少量、ロームブロック 5～3 mm 少量含む)
9. 黒色土 (しまりややあり)
10. 黒色土 (ロームブロック 1 cm～5 mm 少量含む)
11. 明褐色土 (硬化面直上 ローム粒子多量、ロームブロック 3～1 cm 少量含む しまりとてもあり)

- I. 暗褐色土 (硬化面 ロームブロック 2 cm 多量含む しまりとてもあり)
- II. 暗褐色土 (ロームブロック 1 cm 若干含む しまりあり)
- III. 黒褐色土 (ローム粒子微量含む しまりややあり)
- IV. 暗褐色土 (梯子柱痕 ローム粒子若干含む)
- V. 暗褐色土 (ロームブロック 1 cm～5 mm 多量含む しまりややあり)

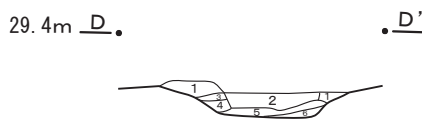
SI008 貯蔵穴セクション



SI008 貯蔵穴セクション

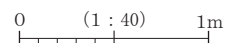
1. 暗褐色土 (ロームブロック 2～1 cm 含む)
2. 暗褐色土

SI008 炉セクション



SI008 炉セクション

1. 白色粘土 (砂粒多量含む しまりややあり)
2. 赤褐色土 (1 層目が被熱を受けたような土層 しまりあり)
3. 赤褐色土 (硬化部 しまりとてもあり)
4. 赤褐色土 (しまりあり)
5. 赤褐色土 (褐色土若干含む しまりややあり)
6. 暗褐色土



第 22 図 宮ノ後遺跡 (6) SI008 遺構図

SI009 (第 23・24 図、第 1 表、図版 4・9・10)

位置 調査区東部端に位置する。西側に SI008 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸長方形で、主軸方向は $N-46^{\circ}-E$ を指す。

規模は南北 4 m × 東西 4.4 m で壁高は東壁で 5 cm、西壁で 4 cm を測る。硬化面は住居中央部に広がる。住居北東部は全体が削平されている。

燃烧施設 炉跡は住居中央部よりやや北東側に位置し、長軸 50 cm、短軸 45 cm 程度で、楕円形を呈する。

付属施設 Pit は 3 基検出された。Pit 1 は貯蔵穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 14 cm、Pit 2 は 40 cm、Pit 3 は 26 cm を測る。壁周溝は幅 10 cm、深さ 5 cm 程度で、南東隅と削平を受けている北東側を除いて検出している。

出土遺物 弥生土器 1361.45 g、土師器 67.47 g、軽石・礫 176.23 g が出土した。

1. 弥生土器：器種・台付甕 法量：口径 17.7 cm、器高 (17.6) cm、重量 738.41 g 色調：明黄褐色 技法：外面口唇部キザミ、口縁部多重の輪積痕、体部ヘラケズリ後、ヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後、ヘラナデ調整

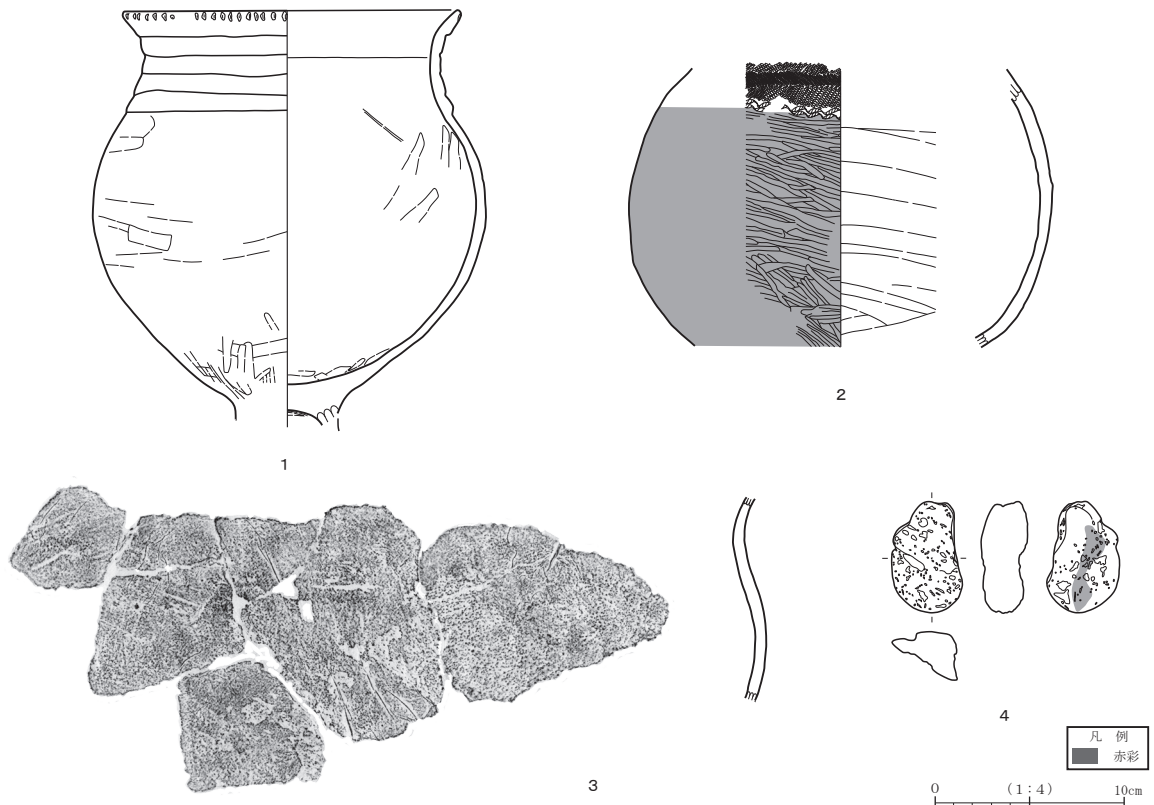
2. 弥生土器：器種・壺？ 法量：器高 (4.8) cm、底径 8.7 cm、重量 802.37 g 色調：暗褐色 技法：外面上半斜縄文 LR、RL、LR 後に結節文 R、体部ヘラミガキ調整、赤彩、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整

3. 弥生土器：器種・甕？ 重量 123.89 g 色調：黄褐色 技法：外面ヘラケズリ後にヘラナデ調整、内面ハケメ後にヘラケズリ、ヘラナデ調整

4. 石製品（砥石？）：材質：軽石 法量：長さ 5.9 cm、幅 3.7 cm、厚 2.4 cm、重量 9.31 g 色調：灰白色

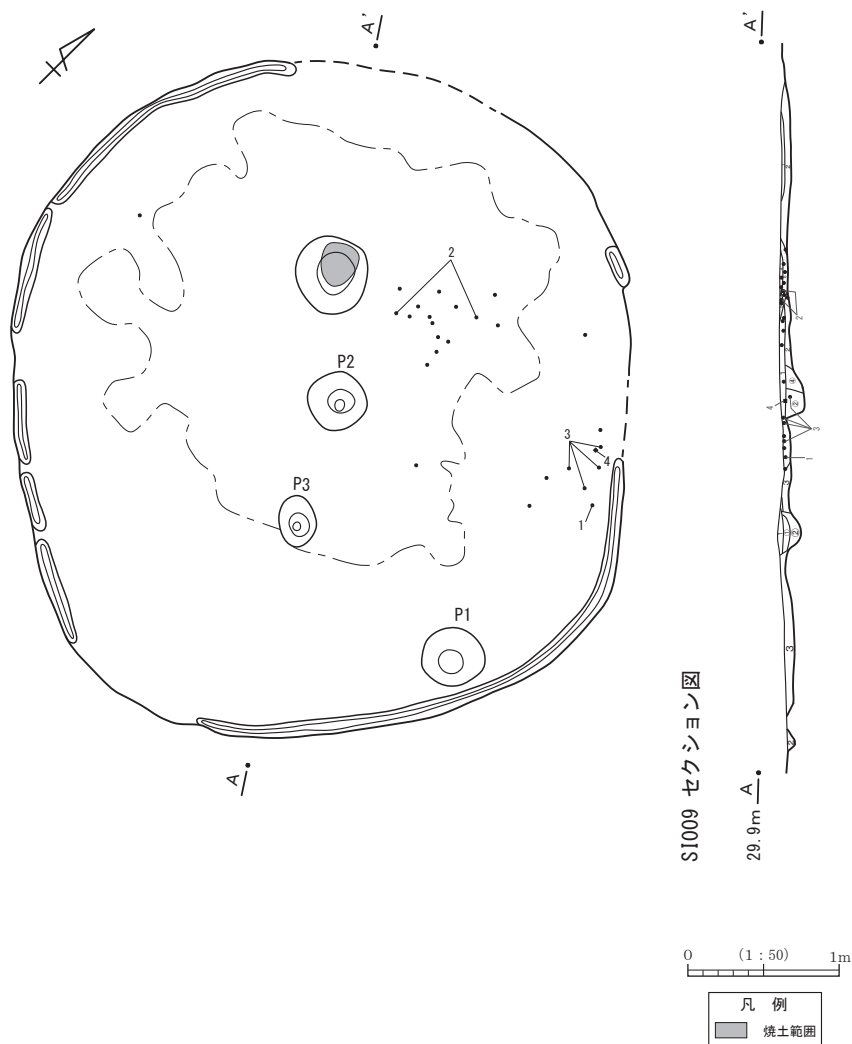
備考：一部に被熱痕有

SI009 出土遺物



第 23 図 宮ノ後遺跡 (6) SI009 出土遺物

SI009 平面図



SI009 セクション

1. 暗褐色土 (ロームブロック 2 ~ 1 mm 微量含む しまりあり)
2. 黄褐色土 (ローム粒子微量含む しまりあり)
3. 暗褐色土 (ロームブロック 5 cm 少量含む しまりあり)
4. 赤褐色土 (砂粒子多量含む しまりあり)
5. 暗褐色土 (粘土粒子少量含む しまりあり)
6. 茶褐色土 (しまりややあり)
- ① 暗褐色土 (茶褐色土少量含む しまりあり)
- ② 暗褐色土 (ローム粒子若干含む しまりややあり)
- ③ 暗褐色土 (ローム粒子多量含む)
- ④ 暗褐色土 (しまりあり)

第 24 図 宮ノ後遺跡 (6) SI009 遺構図

SI010 (第 25・26 図、第 1 表、図版 4・5・6・10)

位置 調査区東部端に位置する。西側に SI008 が位置する。

形態・規模 平面形態は隅丸長方形で、主軸方向は $N-46^{\circ}-E$ を指す。

規模は南北 4 m × 東西 4.4 m で壁高は東壁で 5 cm、西壁で 4 cm を測る。硬化面は住居中央部に広がる。住居北東部は全体が削平されている。

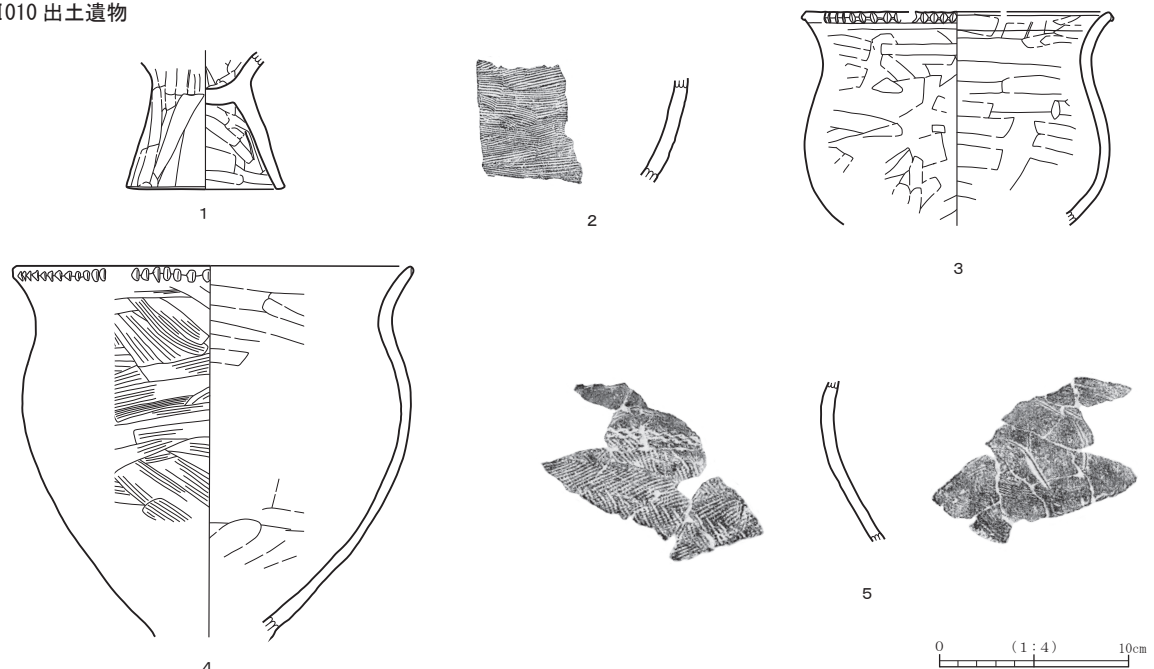
燃焼施設 炉跡は住居中央部よりやや北東側に位置している。炉跡は長軸 50 cm、短軸 45 cm 程度で、楕円形を呈する。

付属施設 Pit は 3 基検出された。Pit 1 は貯蔵穴と推定される。床面からの深さは、Pit 1 は 14 cm、Pit 2 は 40 cm、Pit 3 は 26 cm を測る。壁周溝は幅 10 cm、深さ 5 cm 程度で、南東隅と削平を受けている北東側を除いて検出している。

出土遺物 出土遺物 弥生土器 1,624.17 g、土師器 1,099.6 g、土製品・軽石・礫 209.08 g が出土した。1～5 が出土し図化した遺物である。

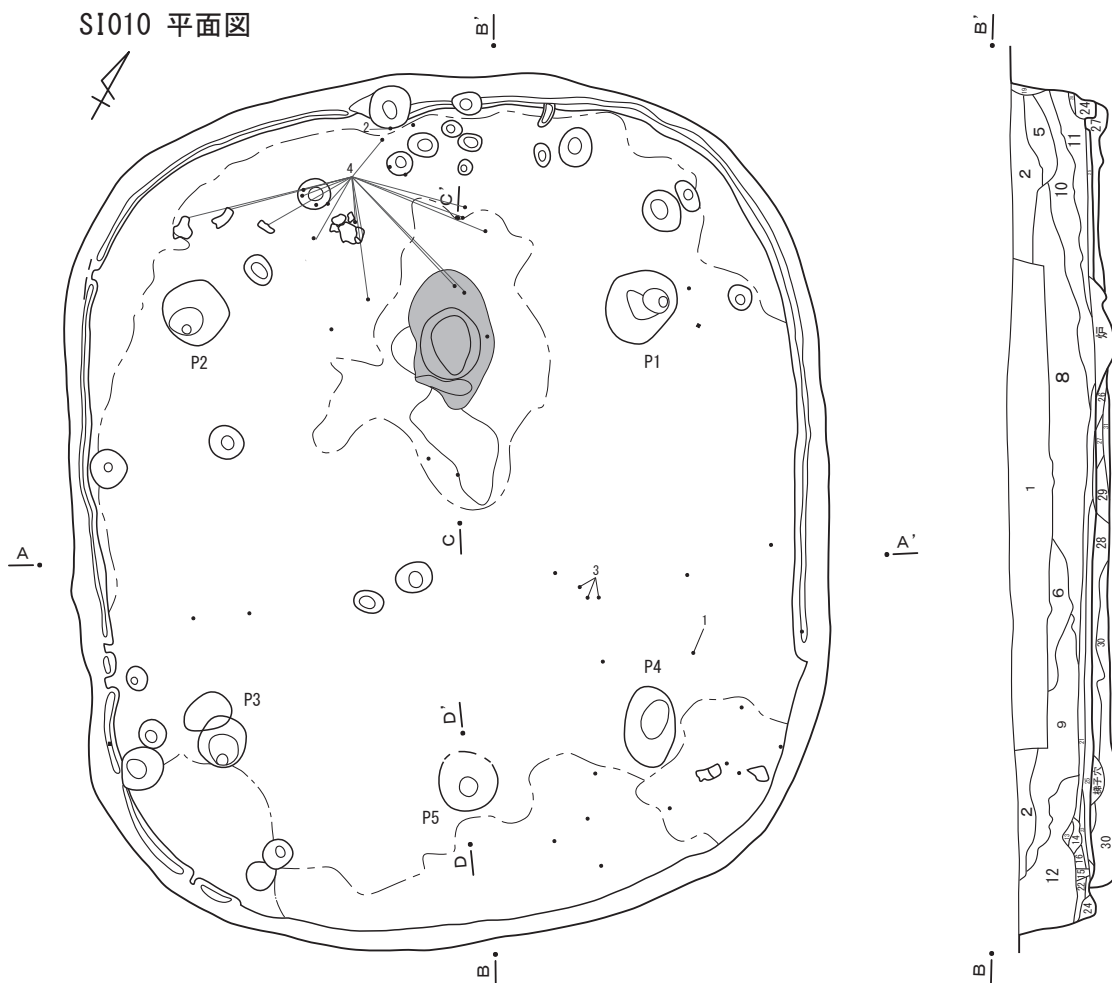
1. 弥生土器：器種・台付甕？ 法量：器高 (7.3) cm、底径 (8.4) cm、重量 164.35 g
色調：黄褐色 技法：外面ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面ヘラナデ調整、一部に煤付着
2. 弥生土器：器種・甕 重量 35.85 g 色調：黄褐色 技法：外面横方向ハケメ調整、内面ヘラナデ調整
3. 弥生土器：器種・壺 法量：器高 (11.3) cm、口径 16.6 cm、重量 112.66 g 色調：灰褐色 技法：外面口唇部キザミ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後ヘラナデ調整
4. 弥生土器：器種・台付甕 法量：器高 (19.6) cm、口径 21.6 cm、重量 907.65 g 色調：にぶい黄褐色
技法：外面口唇部キザミ、体部斜方向ハケメ後にヘラナデ調整、内面ヘラケズリ後ヘラナデ調整
5. 弥生土器：器種・壺？ 重量 54.19 g 色調：明赤褐色 技法：外面赤彩、結節文 RL、LR、RL、LR、内面横方向ハケメ後にヘラナデ調整

SI010 出土遺物

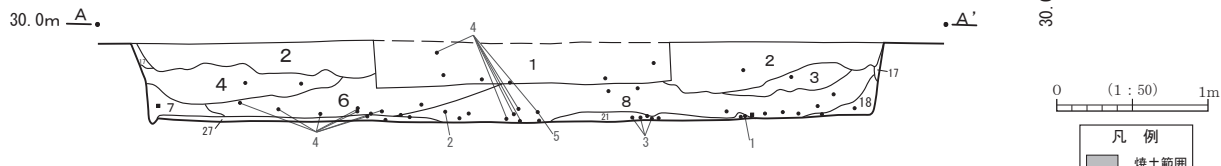


第 25 図 宮ノ後遺跡 (6) SI010 出土遺物

SI010 平面図



SI010 セクション図



SI0010 セクション

- | | | | |
|----------|--|-----------|--|
| 1. 暗褐色土 | (確認調査トレンチ覆土 ロームブロック 3~1cm若干含む しまりややあり) | 16. 黒褐色土 | (ローム粒子少量含む しまりややあり) |
| 2. 暗褐色土 | (ローム粒子少量含む しまりややあり) | 17. 明褐色土 | (壁面崩落土 暗褐色土少量含む しまりややあり) |
| 3. 暗褐色土 | (ローム粒子若干含む しまりややあり) | 18. 黒褐色土 | (ローム粒子少量含む しまりややあり) |
| 4. 暗褐色土 | (ローム粒子若干、ロームブロック 3cm少量含む しまりややあり) | 19. 暗褐色土 | (茶褐色土多量、ロームブロック 7mm微量含む しまりあり) |
| 5. 暗褐色土 | (ローム粒子、ロームブロック 5mm極微量含む しまりややあり) | 20. 黒色土 | (しまりとてもあり) |
| 6. 暗褐色土 | (ローム粒子多量 しまりあり) | 21. 暗褐色土 | (硬化面直上 焼土粒子、ローム粒子微量含む しまりあり) |
| 7. 黒色土 | (ローム粒子少量含む しまりあり) | 22. 黒色土 | (しまりよわい) |
| 8. 暗褐色土 | (ローム粒子多量、ロームブロック 1cm~5mm少量に含む しまりあり) | 23. 暗褐色土 | (ロームブロック 3mm微量含む しまりあり) |
| 9. 暗褐色土 | (ローム粒子少量、ロームブロック 7~5mm少量含む しまりややあり) | 24. 暗褐色土 | (しまりなし ローム粒子多量に含む) |
| 10. 暗褐色土 | (ローム粒子若干、ロームブロック 3mm少量含む しまりややあり) | 25. 褐色土 | (硬化面 ローム粒子、ロームブロック 1cm~7mm若干含む しまりとてもあり) |
| 11. 暗褐色土 | (ローム粒子微量、ロームブロック 1cm極微量含む しまりややあり) | 26. 暗褐色土 | (焼土粒子少量、ロームブロック 1cm若干含む しまりあり) |
| 12. 暗褐色土 | (ローム粒子微量、ロームブロック 10cm少量含む しまりややあり) | 27. 明黄褐色土 | (暗褐色土少量含む しまりあり) |
| 13. 茶褐色土 | (しまりとてもあり) | 28. 明黄褐色土 | (暗褐色土若干含む しまりあり) |
| 14. 暗褐色土 | (炭化粒子、ローム粒子少量、ロームブロック 7mm微量含む しまりややあり) | 29. 茶褐色土 | (ローム粒子少量含む しまりあり) |
| 15. 黒色土 | (しまりよわい) | 30. 黒色土 | (ローム粒子少量含む しまりややあり) |

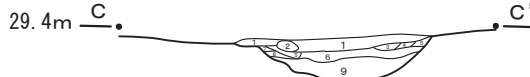
SI010 Pit5 セクション



SI0010 Pit5 セクション

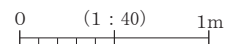
- | | |
|---------|----------------------------------|
| 1. 暗褐色土 | (焼土粒子微量、ロームブロック 2~3mm若干含む しまりあり) |
| 2. 黒褐色土 | (ロームブロック微量含む しまりあり) |
| 3. 黒褐色土 | (ロームブロック 2~1.5mm若干、明褐色土含む しまりあり) |
| 4. 黒褐色土 | (ローム粒子少量、ロームブロック微量含む しまりあり) |
| 5. 黒褐色土 | (ローム粒子少量含む しまりあり) |

SI0010 炉セクション



SI0010 炉セクション

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1. 暗褐色土 | (焼土粒子微量含む しまりややあり) |
| 2. 黄灰色土 | (黄灰色粘土主体 しまりあり) |
| 3. 明赤褐色土 | (焼土主体、粘土粒子微量含む) |
| 4. 明褐色土 | (ローム粒子、焼土粒子微量含む しまりややあり) |
| 5. 赤褐色土 | (焼土粒子ブロック状に含む しまりあり) |
| 6. 褐色土 | (焼土粒子、ローム粒子微量含む しまりややあり) |
| 7. 黄褐色土 | (ローム粒子多量含む しまりあり) |
| 8. 黒褐色土 | (炭を主体とした黒色粒子少量含む しまりややあり) |
| 9. 暗黄褐色土 | (黒色粒子少量、ロームブロック 3~1cm少量含む しまりあり) |



第 26 図 宮ノ後遺跡 (6) SI010 遺構図

(2) 性格不明遺構

SX001(第27・28図、第1表、図版6・10)

位置 調査区の南西側に位置する。西側に SI007、北東側に SI003 が位置する。

形態・規模 平面形態は長軸 2.1 m、短軸 2 m 程度の不正形の円形を呈する。

主軸方向は N-40°-E を指す。壁高は 5 cm 程度で、全体的に底面近くまで削平を受けていたことから詳細は不明である。遺構の中央部に硬化面と推定される範囲が確認されているが、柱穴などは確認できなかった。

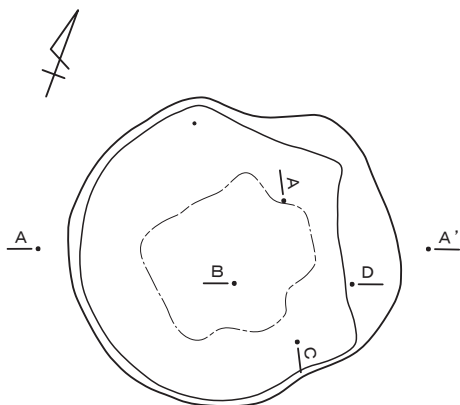
出土遺物 東側では土器が集中して出土している。弥生土器 135.84 g、土師器 751.51 g、土製品・軽石 6.62 g が出土した。

1～2 が SX001 内から出土し図化した遺物である。

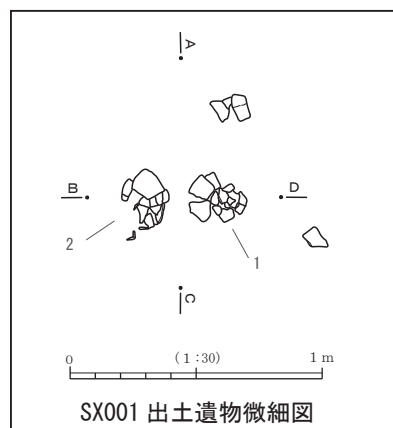
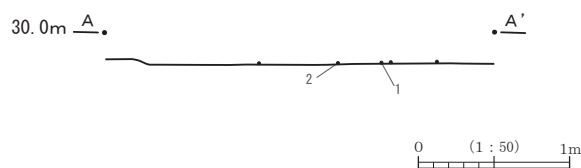
1. 弥生土器：器種・甕 法量：口径 (16.7) cm、器高 13.5 cm、底径 6.0 cm、重量 394.05 g 色調：暗橙色 技法：外面口唇部工具によるキザミ、体部ヘラケズリ後にヘラナデ調整、底部焼成後に穿孔、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整

2. 弥生土器：器種・甕？ 法量：器高 (9.4) cm、重量 231.10 g 色調：橙色 技法：外面下手ケズリ後にヘラナデ、一部にヘラミガキ調整、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整、煤の付着痕

SX001 平面図

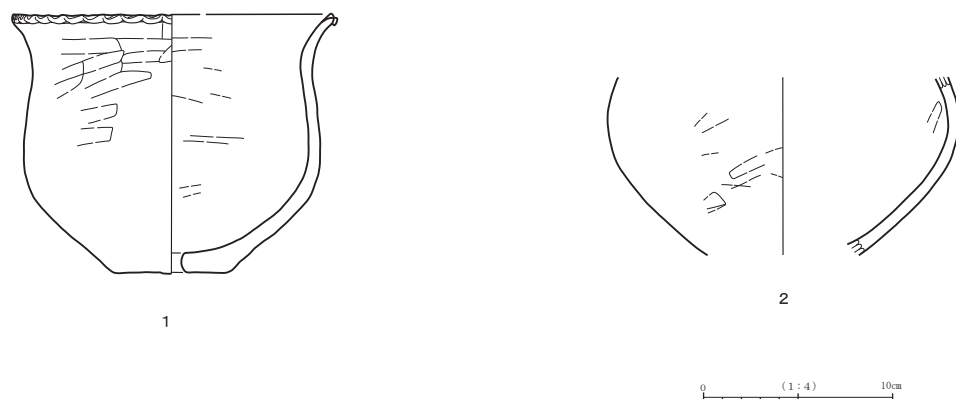


SX001 エレベーション図



第27図 宮ノ後遺跡(6) SX001 遺構図

SX001 出土遺物



第 28 図 宮ノ後遺跡（6）SX001 出土遺物

（3）遺構外出土遺物 （第 29 図、第 1 表、図版 10）

出土遺物 調査区内の遺構外からは、弥生土器 592.97 g、土師器 13.83 g、すり鉢・礫 17.81 g が出土した。

1 が図化した遺物である。

1. 弥生土器：器種・小型壺 法量：器高（6.2）cm、底径 5.1 cm、重量 90.53 g 色調：暗赤褐色

技法：外面赤彩、ヘラケズリ後にヘラミガキ調整、内面ヘラケズリ後にヘラナデ調整

遺構外出土遺物



第 29 図 宮ノ後遺跡（6）遺構外出土遺物

第3章．まとめ

これまで6回の調査が行われてきたが、第6次調査以前は、土坑、方形周溝墓や溝状遺構、道路状遺構などの検出に留まっていた。出土遺物としては縄文時代から近世に至るまでの遺物が検出していたが、住居跡が検出されていなかったため、遺跡内における居住域の分布状況が不明確であった。

第5次の確認調査及び、今回の第6次調査にて弥生時代後期から古墳時代前期にかけてと推定される住居跡を検出し、遺跡範囲の中央部西側に居住域が分布していることを把握することができた。

また、検出された住居跡は10軒であり、断片的な調査に留まったSI006の住居跡を除いて炉跡を確認した。

これらの住居跡より出土した遺物から弥生時代後期後葉から古墳時代前期にかけての遺物が多い特徴があるが、住居跡の形状なども考慮すると、弥生時代後期中葉から後葉にかけてを中心に居住域が営まれていたと推定される。

SX001については硬化面と壁溝を確認したが、柱穴や炉跡などの燃焼施設は確認されなかった。

また、遺物が集中して出土した地点などが確認され、周囲より検出された住居跡に比べて、規模も小さいことから、日常的な住居としての役割ではなく、別の役割として機能していたと推定される。

特徴的な出土遺物として、SI005より鉄製品が2点が出土しており、形状から鉄鍬や刀子などの破片とも推定されるが、遺存状況が良好ではないことから明確な種類については判別できなかった。また、1点の鉄製品（出土遺物番号8）については、出土した地点からも住居とは共伴しない遺物の可能性も推定される。

その他、SI008では、ミニチュアの被熱した台付甕なども出土し、祭祀的な行為が住居内で行われた可能性が出土遺物より推定される。

今回検出した居住域のやや北東側では、第4次調査で方形周溝墓や古墳などが検出していることから、居住域を形成する地点と墓域を形成する地点が隔てられていた可能性が推定され、これまで確認されていなかった宮ノ後遺跡における居住域を確認することができ、墓域と居住域の境界についても推定することができた。

また、住居の重複などは今回の調査ではみられず、出土遺物からも長期的に大規模な定住が行われていた可能性は低いと推定され、周辺に分布する山王台遺跡や、谷ノ台遺跡などの長期間定住していたであろう大規模集落から分散した小さな集落であったのではないかと推定される。

調査の結果より、宮ノ後遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての居住域が、今回の調査区から南側周辺に点在して分布する可能性が推定されるが、今回の調査例だけでは断定できないため、今後の調査例の蓄積を待ちたい。

参考文献

簗島正広 1998『谷ノ台遺跡発掘調査報告書』（財）君津郡市文化財センター

大河原務・鎌田望里 2019『平成30年度袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ケ浦市教育委員会

簗島正広 2019『千葉県袖ケ浦市宮ノ後遺跡（4）―神納地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―』
袖ケ浦市教育委員会

助川 諒 2022『令和3年度袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ケ浦市教育委員会

第1表 宮ノ後遺跡（6） 出土遺物内訳表

遺構 番号	総量(g)	弥生土器		古墳時代土師器		その他		
		重量(g)	比率	重量(g)	比率	種別	重量(g)	比率
SI001	818.32	402.16	49.1%	402.46	49.2%	軽石・礫	13.7	2%
SI002	8034.55	1798.57	22.4%	6188.63	77.0%	軽石・礫	47.35	1%
SI003	459.48	168.32	36.6%	212.88	46.3%	土製品・軽石	78.28	17%
SI004	2469.84	2272.96	92.0%	134.38	5.4%	土製品・軽石・礫	62.5	3%
SI005	2132.67	1263.81	59.3%	720.83	33.8%	鉄製品・軽石・礫	148.03	7%
SI006	588.69	364.35	61.9%	224.34	38.1%			
SI007	829.72	334.73	40.3%	38.1	4.6%	石器・軽石・礫	456.89	55%
SI008	741.2	639.45	86.3%	82.64	11.1%	軽石・礫	19.11	3%
SI009	1605.15	1361.45	84.8%	67.47	4.2%	軽石・礫	176.23	11%
SI010	2932.85	1624.17	55.4%	1099.6	37.5%	土製品・軽石・礫	209.08	7%
SX001	893.97	135.84	15.2%	751.51	84.1%	土製品・軽石	6.62	1%
表採	624.61	592.97	94.9%	13.83	2.2%	すり鉢・礫	17.81	3%
合計	22131.05	10958.78	49.5%	9936.67	44.9%	—	1235.6	6%

写真図版



1. 調査前全景 (南東→)



2. 調査区遠景 (北東→)



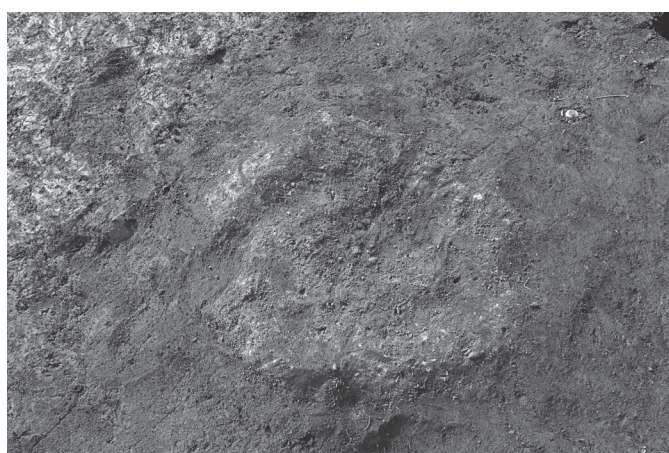
3. 調査区基本層序 (南→)



4. SI001 完掘状況 (南→)



5. SI001 遺物出土状況 (南東→)



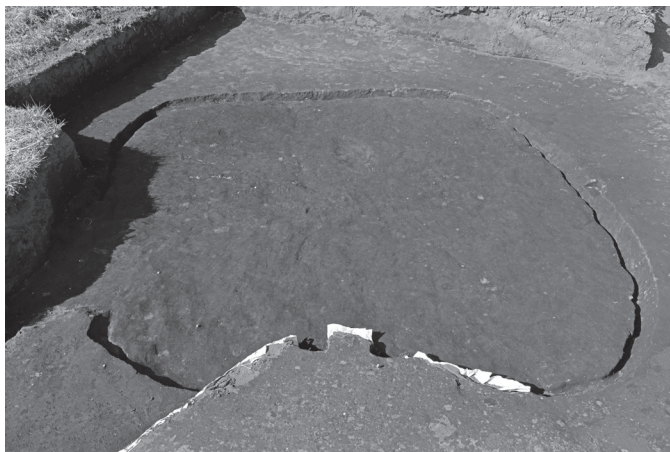
6. SI001 炉完掘状況 (南東→)



7. SI001 炉遺物出土状況 (南東→)



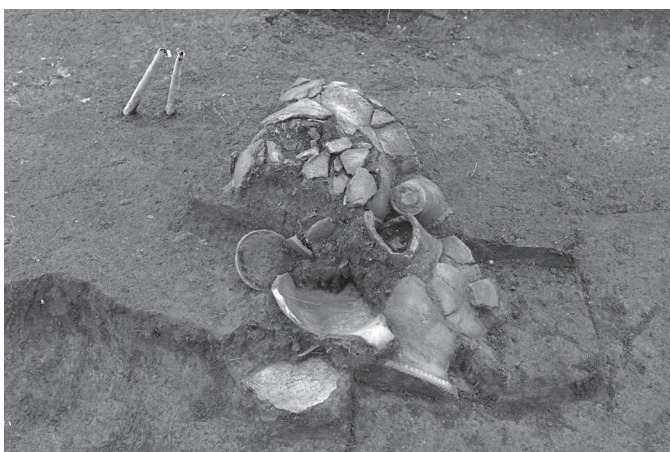
8. SI001 炉遺物出土状況 (南→)



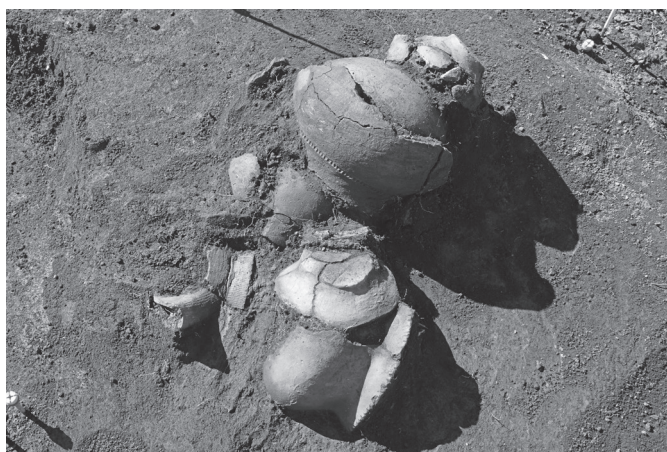
1. SI002 完掘状況 (南→)



2. SI002 遺物出土状況 (北西→)



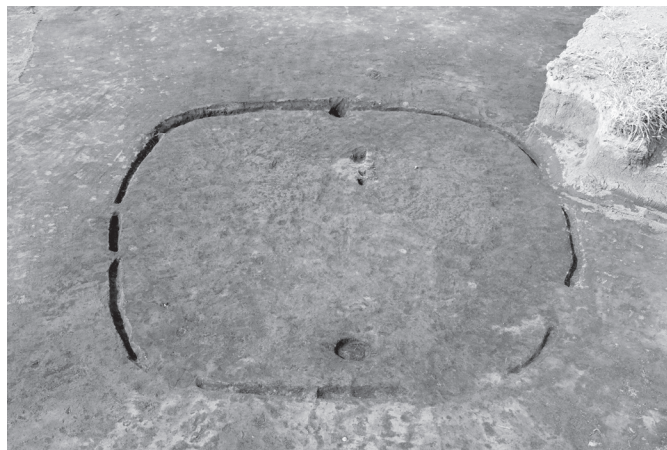
3. SI002 遺物出土状況 (北→)



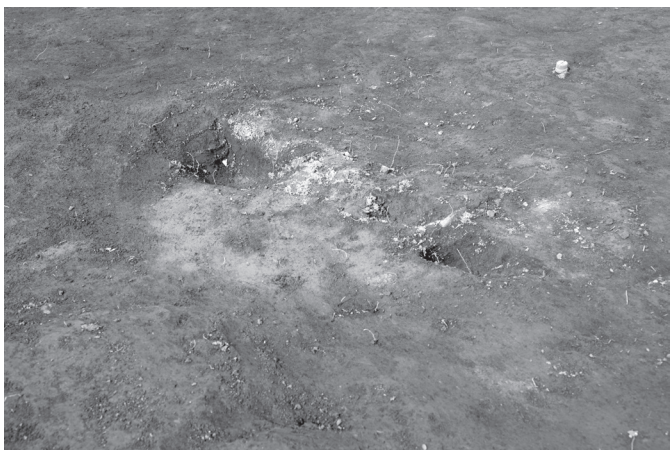
4. SI002 遺物出土状況 (北東→)



5. SI002 遺物出土状況近影 (北東→)



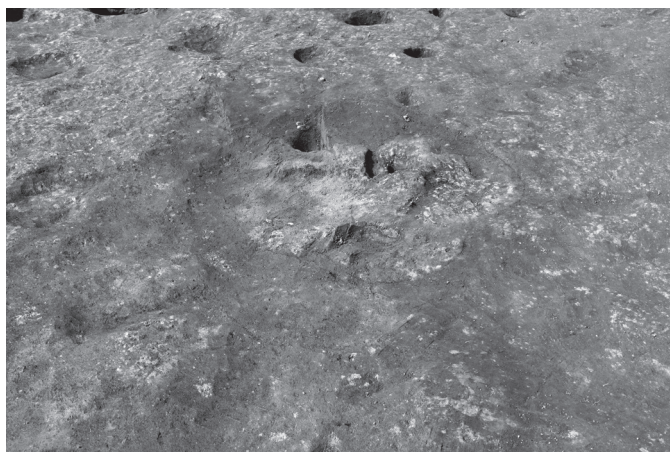
6. SI003 完掘状況 (南→)



7. SI003 炉完掘状況 (南西→)



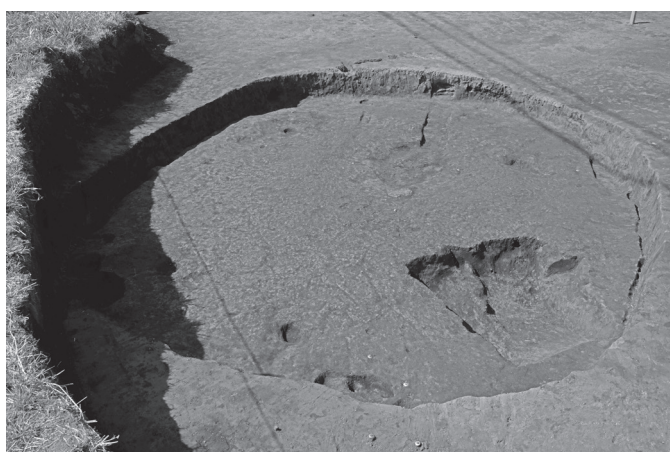
8. SI004 完掘状況 (南東→)



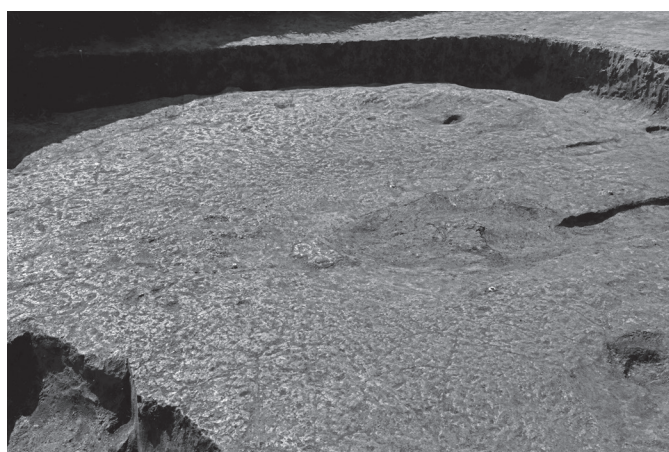
1. SI004 炉 (南東→)



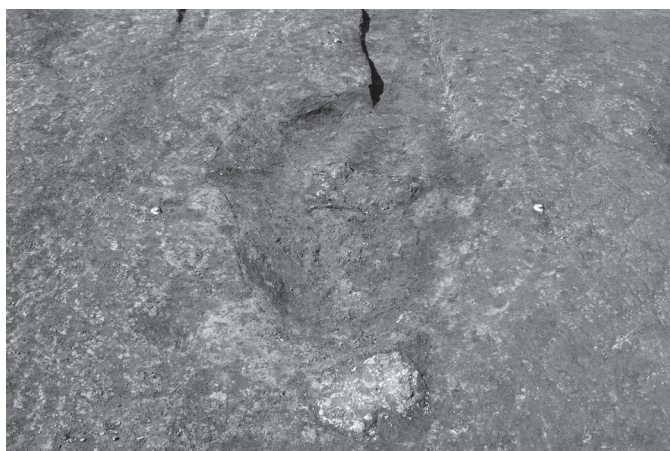
2. SI004 炉セクション (南→)



3. SI005 完掘状況 (南東→)



4. SI005 炉完掘状況 (北東→)



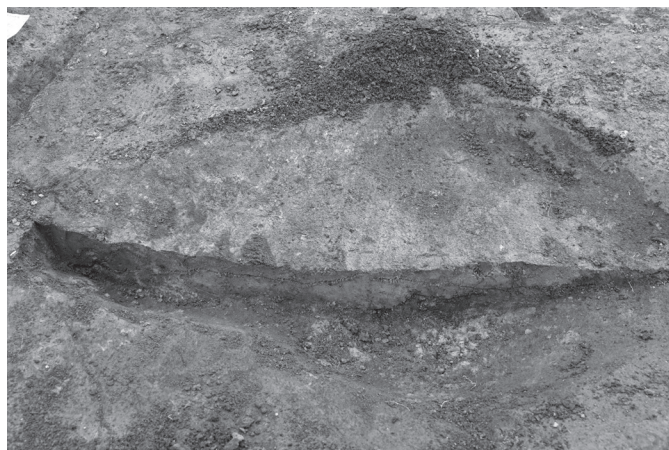
5. SI005 炉 (南東→)



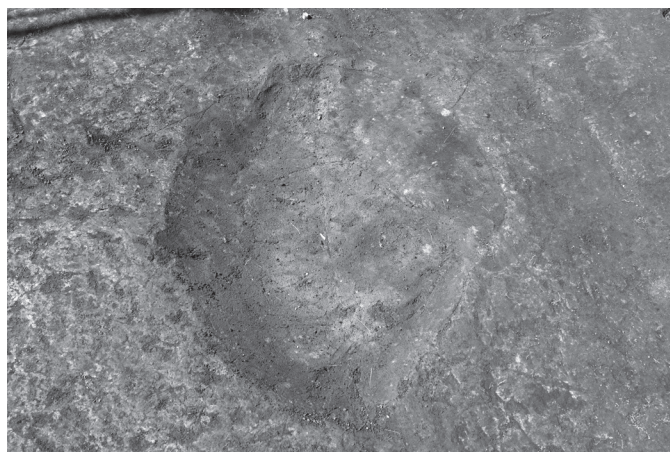
6. SI006 完掘状況 (南→)



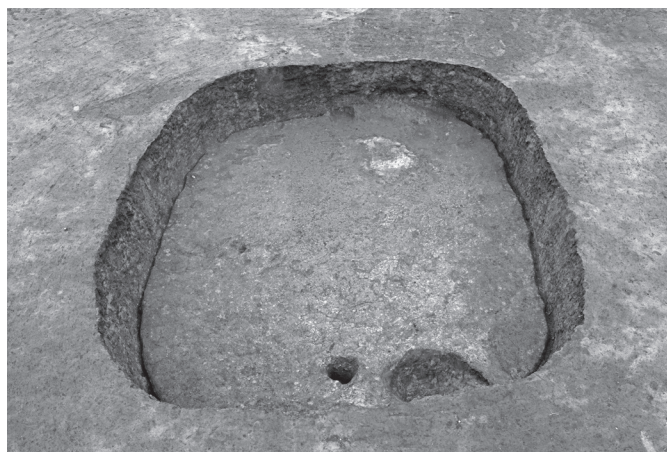
7. SI007 完掘状況 (南東→)



8. SI007 炉セクション (北東→)



1. SI007 炉 (南東→)



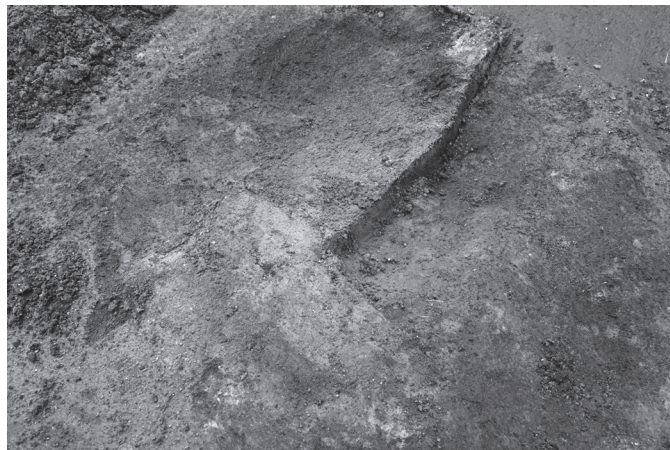
2. SI008 完掘状況 (南東→)



3. SI008 炉 (南東→)



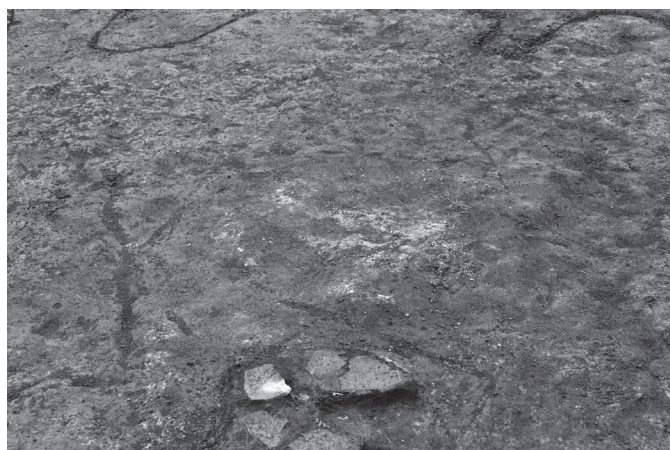
4. SI008 炉精査状況 ①



5. SI008 炉精査状況 ②



6. SI009 遺物出土状況 (南東→)



7. SI009 炉 (南東→)



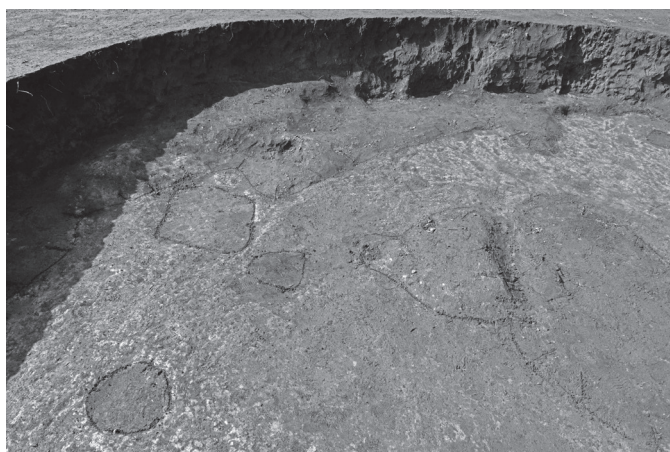
8. SI010 完掘状況 (南東→)



1. SI010 セクション (南→)



2. SI010 完掘状況 (南東→)



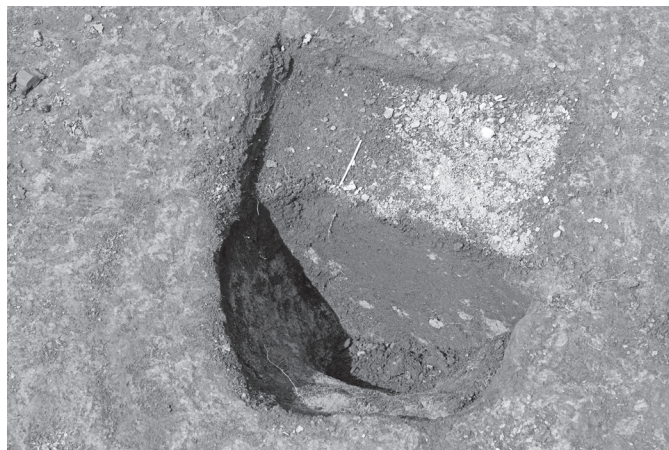
3. SI010 精査状況北西隅 (南→)



4. SI010 柱穴セクション①



5. SI010 柱穴セクション②



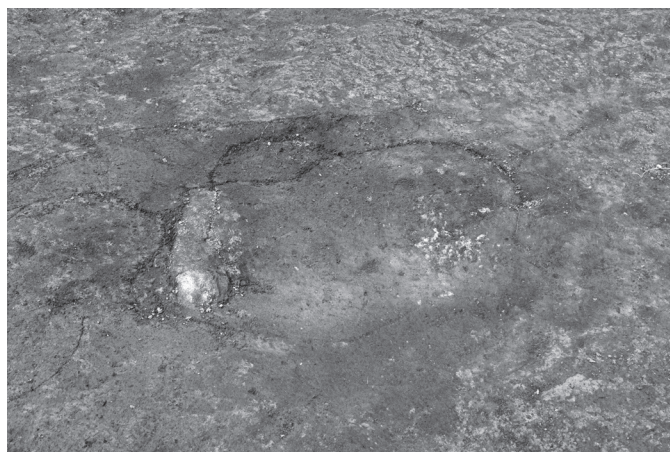
6. SI010 柱穴セクション ③



7. SI010 梯子穴セクション (南西→)



8. SI010 北西端遺物出土状況 (南西→)



1. SI010 炉セクション (北東→)



2. SI010 炉セクション (北東→)



3. SX001 遺物出土状況 (南東→)



4. 作業風景①



5. 作業風景②



6. 作業風景③



7. 埋戻し風景 (南西→)



8. 調査終了後 (南→)



1. 出土遺物（第6図-1）



2. 出土遺物（第6図-2）



3. 出土遺物（第6図-3）



4. 出土遺物（第8図-1）



5. 出土遺物（第8図-2）



6. 出土遺物（第8図-3）



7. 出土遺物（第8図-4）



8. 出土遺物（第8図-5）



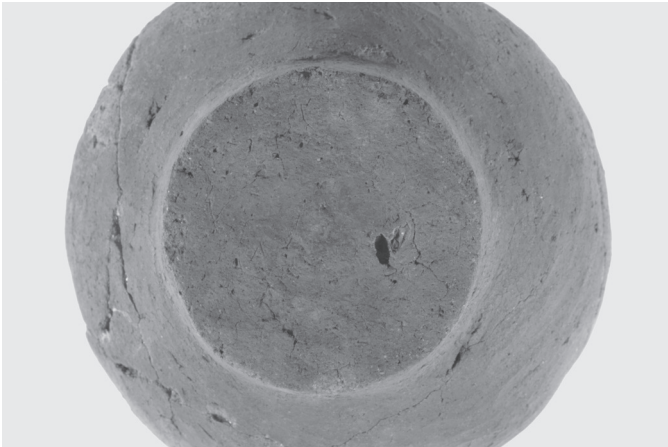
1. 出土遺物 (第 8 - 8)



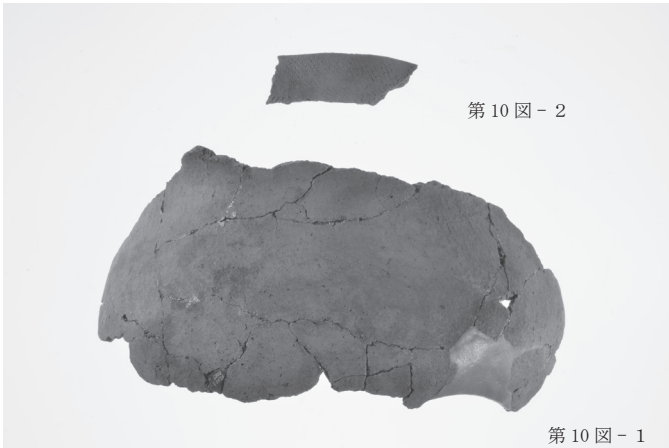
2. 出土遺物 (第 8 図 - 9)



3. 出土遺物 (第 8 図 - 11)



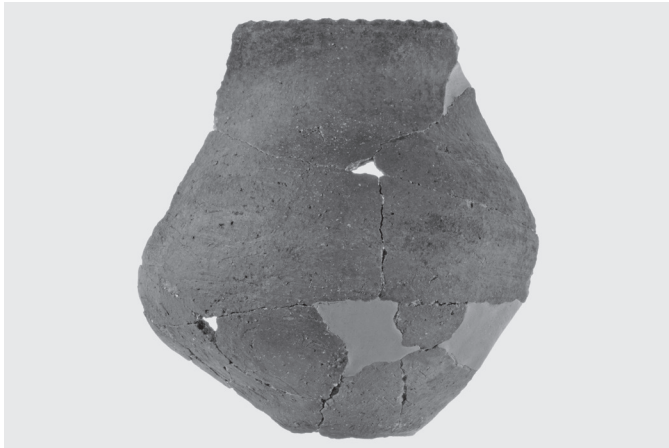
4. 出土遺物 (第 8 図 - 3)



5. 出土遺物 (第 10 図)



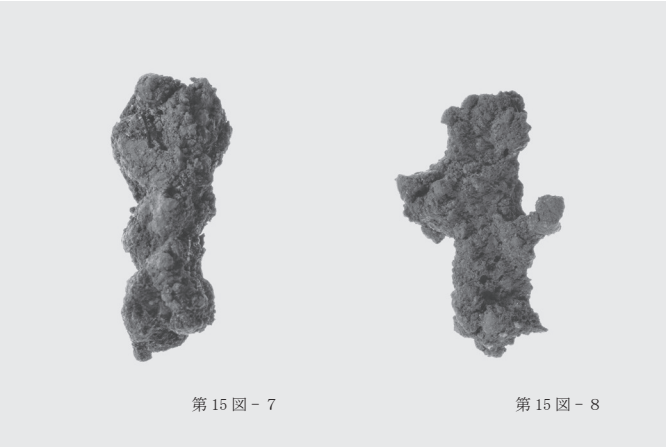
6. 出土遺物 (第 12 図 - 1)



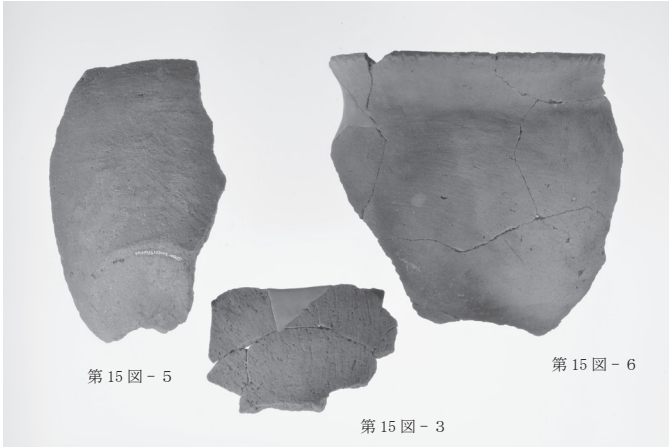
7. 出土遺物 (第 12 図 - 3)



8. 出土遺物 (第 15 図 - 1)



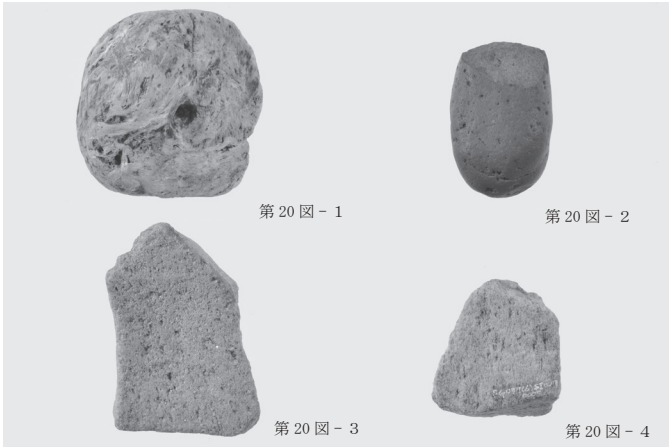
1. 出土遺物(第15図-7・8)



2. 出土遺物 (第15図)



3. 出土遺物 (第17図-1)



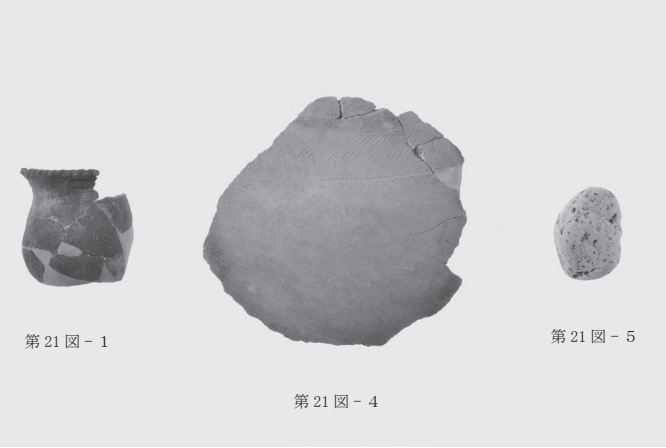
4. 出土遺物 (第20図)



5. 出土遺物 (第21図-2)



6. 出土遺物 (第21図-3)



7. 出土遺物 (第21図)



8. 出土遺物 (第23図-1)



1. 出土遺物 (第 23 図 - 2)



第 23 図 - 3

第 23 図 - 4

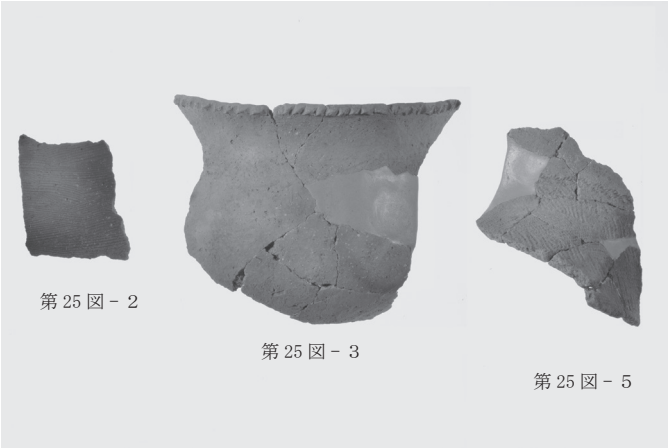
2. 出土遺物 (第 23 図)



3. 出土遺物 (第 25 図 - 1)



4. 出土遺物 (第 25 図 - 4)



第 25 図 - 2

第 25 図 - 3

第 25 図 - 5

5. 出土遺物 (第 25 図)



6. 出土遺物 (第 28 図 - 1)



7. 出土遺物 (第 28 図 - 2)



8. 出土遺物 (第 29 図 - 1)

報告書抄録

ふりがな	みやのうしろいせき（6）							
書名	宮ノ後遺跡（6）							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	助川 諒							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1 TEL 0438-62-2111							
発行年月日	2023年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みやのうしろ 宮ノ後遺跡（6）	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 かんのうあざみやのうしろ 神納字宮ノ後 3363番地1	12229	SG077	35° 25' 43”	139° 58' 5”	20220107 ～ 20220329	1,133.18㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
宮ノ後遺跡	包蔵地	弥生時代 古墳時代	弥生時代竪穴住居跡10軒・性格不明遺構1基		弥生土器・古墳時代土師器・石製品・鉄製品	出土遺物は弥生土器と古墳時代土師器が主体である		
要約	調査区西部を中心に弥生時代後期から古墳時代前期頃の竪穴住居跡が検出された。							

2023年3月8日 印刷

2023年3月13日 発行

千葉県袖ヶ浦市 宮ノ後遺跡（6）

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
電話 0438-62-2111
印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見4丁目14番4号
電話 0438-36-5361

